

1997年度

# フランス語学科シラバス

獨協大学

---

---

## 目次の見方

- ① この冊子では、目次が1994年度以降入学者用と、1993年度以前入学者用とに分かれています。
- ② 目次では、部門ごとに科目名、指導教員名、掲載ページが記載されています。

## 科目名の表記について

入学年度によって、科目名の異なる科目があります。

該当する入学年度は、科目名末尾のカッコ内に表示されています。表示がない場合は、入学年度による科目名の区別はありません。

正しい科目名で履修するよう、注意してください。自分の入学年度を対象としていない科目名での履修はできません。

## 人数制限についての注意

フランス語学科専門科目のフランス語部門——講読、作文、会話、時事フランス語、商業フランス語——については、科目の性質上、余り多人数の授業はできません。したがって、教室の収容人員を越えた履修者がいる場合、あらかじめ担当教員の承諾が必要です。承諾が無いまま履修登録をしても単位は認定されませんので、必ず第一週の授業に出席し、人数制限の有無を確かめ、制限のある場合は承諾を得てから登録するようにして下さい。

---

# 目 次

## 1994年度以降入学者対象

### — 学科共通科目 —

#### 「フランス語」部門

総合フランス語		-----	各担当教員	-----	1
フランス語文章表現法	1	-----	H. Derieppe	-----	2
"	2	-----	S. Giunta	-----	3
"	3	-----	M. 水林	-----	4
"	4	-----	Ph. M. R. Vanney	-----	5
和文仏訳	1	-----	朝倉 剛	-----	6
"	2	-----	(前期) 一戸とおる	-----	7
		-----	(後期) 若森榮樹		
フランス語会話	1	-----	M. Carton	-----	9
"	2	-----	H. Derieppe	-----	10
"	3	-----	R. Floirac	-----	11
"	4	-----	L. Fontaine	-----	12
"	5	-----	S. Giunta	-----	13
"	6	-----	L. Lattanzio	-----	14
"	7	-----	B. P. Leurs	-----	15
"	8	-----	M. 水林	-----	16
"	9	-----	Ch. Pelissero	-----	17
"	10	-----	Y. Perrot	-----	18
"	11	-----	(後期完結) B. Stevens	-----	19
時事フランス語	1	-----	(前期) 一戸とおる	-----	20
		-----	(後期) 若森榮樹		
"	2	-----	伊藤幸次	-----	22
商業フランス語	1	-----	浅野信二郎	-----	23
"	2, 3	-----	D. P. Roger	-----	25

#### 「第二外国語」部門

英語Ⅲ		-----	飛田ルミ	-----	27
英会話Ⅰ-1		-----	R. Durham	(最初の授業で説明)	
"	2	-----	F. Fearn	-----	29
"	3	-----	T. J. Fotos	-----	31
"	4	-----	R. M. Payne	-----	33
"	5	-----	G. Sweeney	-----	35
"	6	-----	L. Villeneuve	-----	37

# — 学科専門科目 —

## 「フランス語学・文学」部門

フランス語学概論	-----	古川直世	-----	3
フランス文学概論	-----	井村順一	-----	4
フランス語史	-----	山田秀男	-----	4
フランス文学史	-----	山内宏之	-----	4
フランス語学各論	-----	小石悟	-----	4
フランス文学各論	-----	鈴木道彦	-----	4
フランス語学講読	1 -----	青木一郎	-----	5
"	2 -----	山田秀男	-----	5
フランス文学講読	1 -----	井村順一	-----	5
"	2 -----	筒井伸保	-----	5
"	3 -----	根本祐徳	-----	5
"	4 -----	山内宏之	-----	5
"	5 -----	横地卓哉	-----	5
"	6 -----	M. 水林	-----	6

## 「フランス文化・社会」部門

フランス文化・社会概論	-----	根本祐徳	-----	6
フランス事情	-----	横地卓哉	-----	6
フランスの地誌	----- (後期完結)	鈴木隆	-----	6
フランスの歴史	-----	藤田朋久	-----	6
フランスの思想	-----	佐藤正之	-----	6
フランスの美術	-----	前川久美子	-----	6
フランスの音楽	-----	松橋麻利	-----	7
フランスの演劇	-----	江花輝昭	-----	7
フランスの経済	-----	千代浦昌道	-----	7
フランス文化・社会各論	1 -----	青木一郎	-----	7
"	2 -----	筒井伸保	-----	7
フランス文化・社会各論B	----- (後期完結)	B. Stevens	-----	8
フランス文化・社会講読	1 -----	井上たか子	-----	8
"	2 -----	江花輝昭	-----	8
"	3 -----	小石悟	-----	8
"	4 -----	鈴木隆	-----	8
"	5 -----	藤田朋久	-----	8
"	6 -----	松山恒見	-----	8
"	7 -----	Ph. M. R. Vanney	-----	8

# 目 次

## 1993年度以前入学者対象

### 「フランス語」部門

フランス語講読	1	.....	青 木 一 郎	.....	5 0
"	2	.....	井 上 たか子	.....	8 1
"	3	.....	井 村 順 一	.....	5 3
"	4	.....	江 花 輝 昭	.....	8 2
"	5	.....	小 石 悟	.....	8 3
"	6	.....	鈴 木 隆	.....	8 4
"	7	.....	筒 井 伸 保	.....	5 4
"	8	.....	根 本 祐 徳	.....	5 5
"	9	.....	藤 田 朋 久	.....	8 6
"	10	.....	松 山 恒 見	.....	8 7
"	11	.....	山 田 秀 男	.....	5 1
"	12	.....	山 内 宏 之	.....	5 7
"	13	.....	横 地 卓 哉	.....	5 9
"	14	.....	M. 水林	.....	6 0
"	15	.....	Ph. M. R. Vanney	.....	8 8
フランス語作文	1	.....	朝 倉 剛	.....	6
"	2	.....	(前期) 一 戸 とおる	.....	7
"		.....	(後期) 若 森 榮 樹		
"	3	.....	H. Derieppe	.....	2
"	4	.....	S. Giunta	.....	3
"	5	.....	M. 水林	.....	4
"	6	.....	Ph. M. R. Vanney	.....	5
フランス語会話	1	.....	M. Carton	.....	9
"	2	.....	H. Derieppe	.....	1 0
"	3	.....	R. Floirac	.....	1 1
"	4	.....	L. Fontaine	.....	1 2
"	5	.....	S. Giunta	.....	1 3
"	6	.....	L. Lattanzio	.....	1 4
"	7	.....	B. P. Leurs	.....	1 5
"	8	.....	M. 水林	.....	1 6
"	9	.....	Ch. Pelissero	.....	1 7
"	10	.....	Y. Perrot	.....	1 8
"	11	.....	(後期完結) B. Stevens	.....	1 9
時事フランス語	1	.....	(前期) 一 戸 とおる	.....	2 0
		.....	(後期) 若 森 榮 樹		

"	2	.....	伊藤幸次	.....	22
商業フランス語	1	.....	浅野信二郎	.....	23
"	2, 3	.....	D. P. Roger	.....	25

### 「フランス語学」部門

フランス語学概論	1	.....	根本祐徳	.....	89
"	2	.....	小石悟	.....	89
"	3	.....	山田秀男	.....	89
"	4	.....	佐藤正之	.....	89
フランス語史		.....	山田秀男	.....	43
フランス語学特殊講義		.....	小石悟	.....	47

### 「フランス文学」部門

フランス文学概論	.....	井村順一	.....	41
フランス文学各論	.....	鈴木道彦	.....	48

### 「フランス文化」部門

フランスの地誌	.....	(後期完結)	鈴木隆	.....	64
フランスの歴史	.....		藤田朋久	.....	66
フランスの哲学	.....		佐藤正之	.....	67
フランスの美術	.....		前川久美子	.....	69
フランスの音楽	.....		松橋麻利	.....	71
フランスの演劇	.....		江花輝昭	.....	72
フランス事情	.....		横地卓哉	.....	63
フランスの経済	.....		千代浦昌道	.....	74
フランス文化特殊講義	1	.....	青木一郎	.....	76
"	2	.....	筒井伸保	.....	78
フランス文化特殊講義B	.....	(後期完結)	B. Stevens	.....	80

### 「第二外国語」部門

英語Ⅲ	.....	飛田ルミ	.....	27
英会話Ⅰ-1	.....	R. Durham	(最初の授業で説明)	
"	2	F. Fearn	.....	29
"	3	T. J. Fotos	.....	31
"	4	R. M. Payne	.....	33
"	5	G. Sweeney	.....	35
"	6	L. Villeneuve	.....	37

科目名	総合フランス語 (94年度以降)	担当者名	各担当教員
-----	------------------	------	-------

講義の目標	Approfondir la a connaissance de la langue francaise, aussi bien sur le plan grammatical que lexical.	
講義概要	Les groupes 1, 2 et 3 travailleront sur les unités 1 et 2 du <i>Nouveau sans frontières 2</i> , le groupe 4 sur les unités 3 et 4 de la même méthode. Comme ce cours n'est assuré qu'une fois par semaine par un enseignant francophone, les étudiants doivent travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance. Ils disposeront des cassettes des leçons. On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.	
使用教材	テキスト	<i>Le nouveau sans frontières 2</i>
	参考文献	
評価方法	La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.	
受講者に対する要望など	Faites bien attention au numéro de votre groupe! Il est peut-être différent de celui de l'année dernière.	

科目名	フランス語文章表現法 1 (94年度以降) フランス語作文 3 (93年度以前)	担当者名	H. Derieppe
-----	---	------	-------------

講義の目標	L'objectif de mon cours sera de permettre aux étudiants de s'exprimer par écrit dans des situations diverses.	
講義概要	Le cours se déroulera en suivant la progression de la méthode Espace 1 et 2, en fonction du niveau des élèves.	
使用教材	テキスト	Espace 1
	参考文献	
評価方法	La notation se fera sur contrôle ou dossier à rendre, point à décider avec les étudiants en début d'année scolaire.	
受講者に対する要望など	Une participation <i>active</i> aux cours sera nécessaire à l'obtention de l'unité de valeur.	



科目名	フランス語文章表現法 2 (94年度以降) フランス語作文 4 (93年度以前)	担当者名	S. Giunta
-----	---	------	-----------

講義の目標	フランス語の理解力向上には欠かせない「フランス及びフランス人を知る」ということをテーマに、より一層の知識と作文力を身につけることを目的とします。		
講義概要	この授業は12のテーマ(首都, 地方都市, 文化, 芸術, 食の文化, 余暇の過ごし方など)ごとに, フランスを掘り下げて考え, 国土の美しいフランスとそこに住むフランス人への理解を深めます。3年生優先で30人までとします。		
使用教材	テキスト	高橋秀雄ほか著 「プロムナード」朝日出版社	
	参考文献		
評価方法	レポートによって評価し, 出席状況も考慮します。		
受講者に対する要望など			

科 目 名	フランス語文章表現法 3 (94年度以降) フランス語作文 5 (93年度以前)	担当者名	M. 水 林
-------	---	------	--------

講 義 の 目 標	Avoir le courage d' écrire directement en français différentes sortes de textes sans passer par la traduction.	
講 義 概 要	Ce cours s' adresse aux étudiants qui désirent améliorer leur capacité de français à l' écrit. Dans un premier temps, on fera des révisions grammaticales en vue de fixer les structures de base pour passer dans un deuxième temps à la rédaction de petits textes variés – lettres, résumés, comptes-rendus – en relation avec notre vie quotidienne.	
使 用 教 材	テ キ ス ト	Photocopies.
	参 考 文 献	Un dictionnaire francais.Par exemple,le Dictionnaire du francais langue étrangè- re niveau II, ou bien le Dictionnaire du francais contemporain. Ces deux dictionnaires, publiés chez Larousse, sont diffusés au Japon en format de poche aux éditions Surugadaï-shuppansha.
評 価 方 法	1. Contrôle continu, ce qui signifie que les étudiants doivent participer au cours chaque semaine. 2. Test lors du dernier cours du 1er et du 2e semestre.	
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど		

科目名	フランス語文章表現法 4 (94年度以降) フランス語作文 6 (93年度以前)	担当者名	Ph. M. R. Vanney
-----	---	------	------------------

講義の目標	Savoir écrire en français avec logique et clarté.	
講義概要	<p>-Exercices variés en classe pour prendre conscience de l'ordre des mots dans un phrase, de la ponctuation, de l'ordre des phrases et des paragraphes dans un texte Travail sur la structure des paragraphes, les articulations et le plan.</p> <p>-Une fois par semestre, chaque étudiant rédige une composition dont le sujet es libre. Le devoir est rendu 3 fois. Au cours des deux premières fois, j'indique le endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible</p>	
使用教材	テキスト	Photocopies : Les sujets concernent plutôt la société française.
	参考文献	<p>-<i>Comment dire? Raisonner à la française</i>, Clé International.</p> <p>-<i>Un point, c'est tout</i>, JP Colignon, Éditions du CFPJ.</p> <p>-3 livres de la Collection Profil, Hatier, sur le sujet.</p>
評価方法	Le grand devoir semestriel est noté.	
受講者に対する要望など	Ce n'est pas un cours de traduction.	

科目名	和文仏訳 1 (94年度以降) フランス語作文 1 (93年度以前)	担当者名	朝倉 剛
-----	---------------------------------------	------	------

講義の目標	<p>2年間の学習によって、フランス語への習熟度は或る程度のレベルに達しているという前提にたち、日常的、実用的な、あるいは文学的な仏作文の手引きとその実習を目標とする。仏作文学習の積極面は、およそ次の3点に集約されるであろう。</p> <p>(1) 将来実社会に出て、作文能力を活かすことができる。</p> <p>(2) フランス語の原典の「読み」もいっそう深めることができる。つまり「解読作業」と「作成作業」とをつなごうという意識がもてる。</p> <p>(3) 日仏文化の接触と交流とを促進することに貢献できる。</p>	
講義概要	<p>1年間の授業計画は次の2つに大別できよう。</p> <p>(1) 前期では、テキストを用い、日常的・実用的作文を実習し、フランス語の慣用的熟語表現の習得に重点を置く。それと平行して、初歩の課程では学ばない「文法の難所」(difficultés grammaticales)に目を向けさせる。</p> <p>(2) 後期にはいっても実用文の学習は続くが、後半の7回ぐらいは、日本文学の仏語訳を読み、2つの言語の発想、表現の違いを検討し、さらに文学作品、エッセー、天声人語のようなコラム類を選んで、仏訳を試みるつもりである。</p>	
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大賀正喜著 『現代フランス語作文』(Le français tel qu'on l'écrit) 第三書房</li> <li>・プリント配布</li> </ul>
使用教材	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大賀正喜著 『現代仏作文のテクニック』 大修館</li> <li>・同上 『現代フランス語名詞活用辞典』 大修館</li> <li>・大賀・メランベルジェ共著 『和文仏訳のサスペンス』 白水社</li> <li>・泉邦寿著 『日仏表現の比較』 大修館</li> <li>・田島宏編 『コレクション フランス語(7) ——書く』 白水社</li> <li>・大橋保夫ほか著 『フランス語とはどういう言語か』 駿河台出版社</li> </ul>
評価方法	<p>評価は前後期各1回の試験と授業参加への熱意によって決定する。</p> <p>ときどき各自の「試作」を提出してもらう。これも評価の基準のひとつとする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>授業に積極的に参加し、自分自身でかならず書いてみる。あたりまえのことだが、これ以外に上達の道はない。</p>	

科目名	和文仏訳 2 (94年度以降) フランス語作文 2 (93年度以前)	担当者名	一戸とおる(前期) 若森 榮樹(後期)
-----	---------------------------------------	------	------------------------

前期

講義の目標	日本語の新聞記事を、同一内容を扱った、対応する <i>Le Monde</i> の記事を参考に仏訳する。仏語の記事を熟読することによって、表現をパターン化・モデル化し、日本語のなかに、この表現パターン・モデルを見いだす練習をする。これによって、仏語の表現能力を養う。		
講義概要	Le Monde の記事のなかから、対応する日本語の記事を仏訳する際に使えるような語彙・表現を探す作業をはじめに行う。次に、これらを参考に、日本語の記事を仏訳する。これを、担当した学生に板書してもらい、それを訂正・修正する。以上の流れに沿って、一つの記事を1・2週で仏訳していく。		
使用教材	テキスト	適宜コピー	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大賀正喜 「現代仏作文のテクニック」大修館書店</li> <li>・石井洋二郎「時事フランス語の入門」白水社</li> <li>・小林 茂 「新聞のフランス語」白水社</li> </ul>	
評価方法	授業への参加態度の積極性の有無、3回程度実施する小テスト、ならびに、前期定期試験を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	同時に開講している『時事フランス語』を合わせて聴講すると、一層効果が期待できよう。		

後期

講義の目標	使えるフランス語の語彙や表現をふやし、書き言葉としてのフランス語を知ること。フランス語独特の論理の展開を身につけること。いろいろな種類の文体（手紙文、論説文など）の区別を知り、書けるようになることがこの講座の目的です。		
講義概要	ともかく作文をしてもらい、それを皆で直しながら、フランス語独特の言い方、話し言葉とは違う書き言葉としてのフランス語を学ぶ。		
使用教材	テキスト	プリント使用	
	参考文献	前期と同じ	
評価方法	後期試験および普段の授業への参加の度合いを総合的に考慮して評価する。		
受講者に対する要望など	規則的に授業に出ることが望ましい。		

## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	前年度後期試験の講評, ならびに, 授業の目標・具体的な進め方の説明
2	事故関連記事(飛行機事故, 船舶沈没, ガス爆発, 洪水, など)の仏訳
3	同上
4	スポーツ関連記事(テニス, 陸上, 自転車, サッカー, F1, など)の仏訳
5	同上
6	政治関連記事(選挙, 首脳会議, スキャンダル, など)の仏訳
7	同上
8	賞関連記事(ノーベル賞, カヌヌ映画祭, 音楽コンクール, など)の仏訳
9	同上
10	死亡記事(文学者, 政治家, 学者, デザイナー, など)の仏訳
11	同上
12	3面記事(殺人, 強盗, 麻薬, など)の仏訳
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	文学作品の翻訳を試みる。(1)
2	同上(2)
3	同上(3)
4	新聞記事の仏訳の試みを通じて, 日本語とフランス語の発想の違いについて考える。(1)
5	同上(2)
6	同上(3)
7	同上(4)
8	フランス語で論文や手紙を書く。(1)
9	同上(2)
10	同上(3)
11	同上(4)
12	同上(5)
備考	

科目名	フランス語会話 1 (94年度以降)	担当者名	M. Carton
	フランス語会話 1 (93年度以前)		

講義の目標	S'EXPRIMER EN FRANÇAIS SUR LA RÉALITÉ FRANÇAISE-ENRICHIR SES CONNAISSANCES LINGUISTIQUES ET CULTURELLES.		
講義概要	CONNAISSEZ-VOUS LA FRANCE, LES FRANÇAIS ? DIFFICILE DE RÉPONDRE. C'EST POURTANT À PARTIR DE VOS CONNAISSANCES ET DE VOS GOÛTS QUE NOUS DÉFINIRONS LES THÈMES DE CE COURS.		
使用教材	テキスト		
	参考文献	LE MATÉRIEL UTILISÉ SERA AUSSI VARIÉ QUE POSSIBLE : ARTICLES DE PRESSE, VIDÉO, CINÉMA, TÉMOIGNAGES, PHOTOS...	
評価方法	CONTROLE CONTINU SOUS FORME DE MINI-EXPOSÉ OU EXAMEN FINAL.		
受講者に対する要望など			

科目名	フランス語会話 2 (94年度以降)	担当者名	H. Derieppe
	フランス語会話 2 (93年度以前)		

講義の目標	L'objectif de mon cours sera de permettre aux étudiants de s'exprimer sans crainte dans des situations de communication diverses.	
講義概要	Le cours sera à base de photocopies tirées de divers manuels, qui donneront matière à réfléchir et à s'exprimer.	
使用教材	テキスト	Le Nouveau Sans Frontières 4, Espace 3
	参考文献	
評価方法	La notation se fera sur contrôle ou dossier à rendre, point à décider avec les étudiants en début d'année scolaire.	
受講者に対する要望など	Une participation <i>active</i> aux cours sera nécessaire à l'obtention de l'unité de valeur.	



科目名	フランス語会話 3 (94年度以降)	担当者名	R. Floirac
	フランス語会話 3 (93年度以前)		

講義の目標	<p>Le français tel qu' on le parle. Vous avez l' intention de visiter ou de séjourner en France ou dans un pays francophone? Cette classe présentera 10 thèmes de la vie de chaque jour (transports, banque, etc) et qui serviront de base à des conversations. Un étudiant préparé en vaut deux: il pourra faire un voyage utile et agréable. Ce cours débutera par l' écoute d' une cassette.</p>	
講義概要		
使用教材	テキスト	H. Kurata. S. Giunta. SANS ESCALE. Ed. SOBI.
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話 4	担当者名	L. Fontaine
-----	-----------	------	-------------

講義の目標			
講義概要	<p>Notre cours ne s'appuiera pas sur un manuel. Des documents, qui toucheront différents thèmes et susciteront les échanges, seront fournis aux étudiants au fur et à mesure. Le cours ne sera pas sanctionné par un examen final, mais les étudiants seront sujets à une évaluation continue. Leur présence aux cours sera une condition nécessaire à leur réussite.</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など			

科目名	フランス語会話 5	担当者名	S. Giunta
-----	-----------	------	-----------

講義の目標	時代とともにフランスは変わりつつあります。話し言葉も日本語と同じく少しずつ変わっています。このような変化を若いフランス人の生活を通して学ぶことを目的とします。		
講義概要	最新のビデオ教材を使い、フランス人のかかえている問題、日常生活、ファッション、ミュージックなどを映像を通して学んでいきます。3年生優先で25人までとします。		
使用教材	テキスト	伊藤幸次ほか著 「サリュ・レ・ジュヌヌ」 早美出版社	
	参考文献		
評価方法	レポートによって評価し、出席状況も考慮します。		
受講者に対する要望など			

科目名	フランス語会話 6	担当者名	L. Lattanzio
-----	-----------	------	--------------

講義の目標	参加者の希望のテーマを中心に、具体的な状況での会話の練習をし、それぞれの関心領域で十分な表現ができるようになることを目指します。	
講義概要	<p>LE COURS S' ARTICULERA AUTOUR DE DEUX TYPES D' ACTIVITE :</p> <p>-EXERCICES ET JEUX DE CONVERSATION.</p> <p>ET/OU</p> <p>-DISCUSSION SUR DES THÈMES CHOISIS PAR LES ETUDIANTS.</p>	
使用教材	テキスト	コピー
	参考文献	
評価方法	出席を重視し、授業中の参加状況によって評価します。	
受講者に対する要望など	受け身の態度ではなく、積極的に授業に参加することを希望します。第一回目の授業時に全体的な説明をしますので、必ず出席して下さい。	

科目名	フランス語会話 7	担当者名	B. P. Leurs
-----	-----------	------	-------------

講義の目標	<p>Le premier objectif du cours est d'améliorer la compréhension orale des étudiants: il s'agit d'acquérir quelques techniques simples pour mieux sélectionner les informations importantes.</p> <p>Ensuite, de nombreux exercices d'entraînement à l'expression orale seront proposés à partir de cassettes audio et vidéo.</p>	
講義概要	<p>Chaque leçon comprendra une partie COMPREHENSION et une partie EXPRESSION. Le cours aura lieu dans une salle de laboratoire spécialement équipée. La répétition et la mémorisation sont au service de l'appropriation. Celle-ci reste prioritaire. Chaque document est une nouvelle occasion pour communiquer.</p>	
使用教材	テキスト	<p>Nous utiliserons le manuel: "MOSAÏQUES" (Daisan Shobo)</p>
	参考文献	
評価方法	<p>A la fin de chaque semestre aura lieu un examen écrit et oral qui portera sur le programme étudié.</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話 8	担当者名	M. 水 林
-----	-----------	------	--------

講義の目標	Oser parler en français de sujets d'actualité, essayer d'aborder différents problèmes de société qui préoccupent les Français aussi bien que les Japonais.		
講義概要	Chaque séance s'articulera autour d'un thème proposé à l'avance afin que les participants puissent organiser et préparer chez eux leurs réflexions en français.		
使用教材	テキスト	PHOTOCOPIES	
	参考文献		
評価方法	Une participation régulière sera nécessaire pour tirer un réel profit de ce cours qui propose aux étudiants un entraînement systématique à l'expression orale. Contrôle continu.		
受講者に対する要望など			

科目名	フランス語会話 9	担当者名	Ch. Pelissero
-----	-----------	------	---------------

講義の目標	CE COURS VISERA À VOUS DONNER LA PAROLE AU TRAVERS DE THÈMES DÉTERMINÉS À L'AVANCE. NOUS PROCÉDERONS PAR PÉRIODES POUR ACCOMPLIR CETTE ÉTUDE	
講義概要	NOUS ÉTUDIERONS QUELQUES ASPECTS ① DE LA SOCIÉTÉ FRANÇAISE ② DE LA LITTÉRATURE ET DE SES IDÉES ③ DU CINÉMA ④ DE LA MUSIQUE ⑤ DE L'ART	
使用教材	テキスト	LES MATÉRIAUX SERONT : PHOTOCOPIES, CASSETTES AUDIO/VIDEO.
	参考文献	
評価方法	L'ÉVALUATION SE FERA À LA MESURE DE VOTRE PARTICIPATION	
受講者に対する要望など		

科目名	フランス語会話 10	担当者名	Y. Perrot
-----	------------	------	-----------

講義の目標	LES ETUDIANTS SERONT ENCOURAGÉS À S'EXPRIMER SUR LES SUJETS LES PLUS VARIÉS. ON PRÉPARERA SEUL OU EN GROUPE. UN SEUL BUT: LE PLAISIR DE PARLER FRANÇAIS.	
講義概要	CE COURS PERMETTRA ÉGALEMENT DE MIEUX CONNAÎTRE LA FRANCE CONTEMPORAINE.	
使用教材	テキスト	DE TRÈS COURTS DOCUMENTS PHOTOCOPIÉS SERONT DISTRIBUÉS.
	参考文献	
評価方法	IL Y AURA UN EXAMEN EN FIN D'ANNÉE.	
受講者に対する要望など		



科目名	フランス語会話 11	担当者名	B. Stevens
-----	------------	------	------------

(後期完結)

講義の目標	コミュニケーションのさまざまな状況に応じて、自分の意思を表現できるようにする。	
講義概要	学生と直接に対話し、考えをまとめ、それをフランス語でどう表現するかを、工夫する。学生の興味があれば、文学や、美術の事柄を話題にしてもよい。場合によっては、Alliance Française 等で使用している会話教科書を題材に使うこともあるが、それは出席する学生と協議して決めることにする。	
使用教材	テキスト	講義中に、参加学生との協議により決める。
	参考文献	講義中に指示
評価方法	平常点かテストにするか、それともレポートにするかは、講義の進行と学生の要望を検討することにより決める。	
受講者に対する要望など	積極的に会話に参加する用意のある人が望ましい。	

科目名	時事フランス語 1	担当者名	一戸とおる(前期) 若森 榮樹(後期)
-----	-----------	------	------------------------

前期

講義の目標	私たちの生活を取り巻くさまざまな領域（政治、経済、文化、レジャー、など）について、概略的な知識を持ち、かつ、それぞれの領域に関して、自らの意見を、専門的とはいかずとも、一般的に表現する（書く・話す）能力を養うことを目標とする。		
講義概要	<i>Le Monde, Les Clés de L'Actualité, etc.</i> の新聞・雑誌から抜粋したテキストを材料にして、その扱っている内容を理解し、そのテキストに現れる語彙・表現モデルを抽象する。これを受けて、同一の内容を扱った音声によるテキスト（主として、衛星放送で放映している <i>France 2</i> のニュース）を材料にして、同じ作業をする。		
使用教材	テキスト	適宜コピー	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石井洋二郎「時事フランス語の入門」白水社</li> <li>・小林 茂「新聞のフランス語」白水社</li> </ul>	
評価方法	授業への参加態度の積極性の有無、3回程度実施する小テスト、ならびに、前期定期試験を総合して、評価する。		
受講者に対する要望など	同時に開講している『和文仏訳』を合わせて聴講すると、一層効果が期待できよう。		

後期

講義の目標	フランスの新聞や雑誌の記事を読み、アクチュアルな問題がどのようにフランス語で表現されているのかを見、語彙を覚え、同時に、フランス的、ヨーロッパ的なものの見方を、日本的な見方と対照して、把握するのが講義の目的です。		
講義概要	“Le mode”, “Le nouvel observateur”, “Libération” のようなフランスの代表的な新聞や雑誌を読みとき、語彙を覚え、それを使って、自分たちでも記事を書いていきます。仏作文的な面も持つことになると思います。		
使用教材	テキスト	プリント使用	
	参考文献	前期と同じ。	
評価方法	後期試験および普段の授業への参加の度合いなどを考慮して、総合的に評価します。		
受講者に対する要望など	できるだけ規則的に出席すること。		

前期

週	主 要 テ ー マ
1	授業の目標・具体的な進め方の説明
2	社会関連（失業，男女の地位，移民，環境，など）
3	同上
4	政治関連（政治体制，政党，選挙，など）
5	同上
6	経済関連（国際貿易収支，農業問題，通貨，など）
7	同上
8	教育関連（教育制度，現代の若者，など）
9	同上
10	文化関連（文学，映画，音楽，など）
11	同上
12	レジャー関連（余暇の過ごし方，スポーツ，など）
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	“Le nouvel observateur” の記事を読む。国際関係に関係したものを選ぶつもり。(1)
2	同上 (2)
3	同上 (3)
4	“Le monde” の記事を読む。アジア関係を読む。(1)
5	同上 (2)
6	同上 (3)
7	
8	“Libération” の記事を読む。社会問題・環境問題について考える。(1)
9	同上 (2)
10	同上 (3)
11	“Figaro” や “Paris Match” のような一般大衆の雑誌を読む。もっとも普通のフランス人の視点について考える。(1)
12	同上 (2)
備考	

科目名	時事フランス語 2	担当者名	伊藤幸次
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>外国語を習得する時、普通日本人の場合、その能力は読&gt;聞&gt;書&gt;話の順になります。母国語の場合、聞→話→読→書の順になるのですが、とりわけヨーロッパ語については、語順や文法構造の違いが障害になります。時事においても、幼児が言葉を覚える時のように聞くことから始めましょう。聞けないものを話すことはできません。特に聴覚は23才頃から急速に老化しますが、発音のための筋肉はいつでもトレーニング可能なのです。更に映像を利用して理解を深めましょう。まさに百聞は一見に如かずですから。</p>		
講義概要	<p>原則として講義当日の朝の <i>France 2</i> のニュースを視聴します。これは前日の夜現地時間の7時からフランスで放映されたものです。全部は聞きとれなくとも、キー・ワードを手がかりに、映像の助けを借りて内容をつかむよう努力します。聞きとれたものは繰り返して発音します。穴埋め問題のような文法的作業はできるだけしません。他にフランスの中高生向け時事問題解説誌から始めて、一般向け日刊・週刊紙誌の購読もします。</p>		
使用教材	テキスト	<i>France 2</i> (教室で放映)	
	参考文献	<p><i>Clés de l'Actualité.</i>  <i>L'Événement du Jeudi.</i>  <i>Le Monde.</i></p>	
評価方法	平常点。教室での対応と提出物による。		
受講者に対する要望など	28名限定。3年生優先		

科目名	商業フランス語 1	担当者名	浅野 信二郎
-----	-----------	------	--------

講義の目標	<p>経済関係記事や商業文を理解し、口頭での実務的連絡も出来るように、講師の実務経験に基づいてのフランスでの生活、日本での実務上での注意事項を説明をし、毎時間の練習によって、引き合い程度の簡単な商業文を書けるようにすることを目的とする。</p>	
講義概要	<p>下記の教科書と共に多くのプリント類（実務に使われたものや、他の参考資料）を配付し、商業・経済関係の用語や商業文の構成要素を説明し、練習の繰り返しによって、簡単な商業文を書けるようにする。</p> <p>フランスでの生活や実務環境を含む文化についても考える。</p>	
使用教材	テキスト	<p>Le français des employés Services/commerce/industrie 著者：M. Dany-C. Noé 発行元：Hachette</p>
	参考文献	<p>大阪日仏文化センター編「ビジネス・フランス語」（白水社）</p>
評価方法	<p>授業への出席、毎授業中の小練習の評価、宿題の提出期限の遵守度と成績の累積評価（50%）と試験の結果（50%）によって判定する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>受講者は十分に予習、復習する意欲を持ち、毎時間の講義には和仏及び仏和辞書を持参（授業中の小練習のため）すること。</p>	

## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	授業の進め方について説明し、受講希望者の受講目的を調べ、学力レベルをチェックする。
2	Chapitre 2, Situation 8 p.102/103 及び資料プリントの説明をして、履歴書 (curriculum vitae) を書く練習をする。
3	Chapitre 1, Situation 1 A l'aéroport (exercice orale) 配付コピーの和訳。
4	前回の和訳の結果、履歴書の講評。Ch.1 Situation 2 : restaurant (ホテル, 料理, ワイン) p.17 Documents の和訳
5	フランスの手紙の書式 (NF Z 11.001) L'en-tête その他の要素の説明 ホテルへの予約申し込みの手紙
6	前回の手紙の結果に従って補足説明。フランスの電話事情。電話での交信の内容を確認する手紙。
7	Ch. 1 Situation 3 A l'hôtel Téléxの型式, Télégramme-Télex-FAX (télécopie) の交信コスト 予約申し込みの手紙を書く練習
8	Ch. 1 Situation 4 : Avec un groupe de touristes francophones
9	Ch. 1 Situation 5 : Dans une agence de voyage
10	Ch. 1 Situation 6 : Dans un bureau de tourisme
11	日本語での商業文の言い回し等の説明 提示すべき要件
12	前期試験 夏期休暇中の宿題を与える
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	前期試験の結果の講評 提出された宿題についての講評
2	Ch. 2 Situation 1 : Lire et comprendre des documents, rabais, remise, escompte, ristourne の区別
3	Ch. 2 Situation 2 : Recevoir du courrier en français, Védette, référence, date, appel の復習
4	Ch. 2 Situation 3 : Envoyer du courrier en France [Agir en français]
5	Ch. 2 Situation 4 : Recevoir un fournisseur francophone [Agir en français]
6	Ch. 2 Situation 5 : Recevoir un client francophone [Document : Voyage en avion] [Cas professionnel d.]
7	Ch. 2 Situation 6 : Travailler avec des francophones [Agir en français]
8	Ch. 2 Situation 7 : Rencontrer des francophones [Agir en français, Communiquer en français]
9	Ch. 2 Situation 8 : Faire un stage en France
10	Ch. 3 Situation 1 : Faire connaître sa production. Traite (支払い約束手形と支払い請求手形) 支払条件に関する手紙
11	Ch. 3 Situation 2 : Importer des produits francophones. Les transports 輸送手段, 建値, FAB, CAF, 問い合わせの手紙
12	Ch. 3 Situation 3 : Exporter des produits en pays francophones
備考	

科目名	商業フランス語 2, 3	担当者名	D.P.Roger
-----	--------------	------	-----------

講義の目標	Ce cours est destiné à familiariser les étudiants avec le monde de l'entreprise en France et sa culture. L'étude de textes et documents permettra d'introduire le vocabulaire et de maîtriser son utilisation, dans les domaines écrit et oral.		
講義概要	La présentation de la culture française d'entreprise et du français commercial se fera par l'étude d'un manuel. Des travaux dirigés tels que la rédaction d'un document ou la mise en scène d'un échange de conversation aidera les étudiants à mettre en application les données assimilées.		
使用教材	テキスト	LE FRANÇAIS DE L'ENTREPRISE (Clé International)	
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など	商業フランス語2と商業フランス語3を重複して履修することは出来ません。		

## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ - マ
1	LES DIFFÉRENTS TYPES D'ENTREPRISE EN FRANCE L'ORGANIGRAMME DE L'ENTREPRISE
2	L'OFFRE ET LA DEMANDE D'EMPLOI
3	CHERCHER UN EMPLOI (1) LE CURRICULUM VITAE
4	(2) CAS PRATIQUE : L'ENTRETIEN
5	LA CORRESPONDANCE COMMERCIALE (1) RÉDACTION D'UNE LETTRE COMMERCIALE
6	(2) RÉDACTION D'UNE LETTRE COMMERCIALE
7	(3) CAS PRATIQUE : LE TÉLÉPHONE, LE FAX
8	PRÉPARATION D'UN VOYAGE À L'ÉTRANGER (1) LES CONTACTS UTILES
9	(2) ORGANISATION DU VOYAGE
10	(3) CAS PRATIQUE : LA NÉGOCIATION
11	LA PUBLICITÉ (1) SON IMPACT
12	(2) CAS PRATIQUE : L'IMPORTATION ET L'EXPORTATION
備考	

## 後期

週	主 要 テ - マ
1	CONNAÎTRE ET DÉFENDRE SES DROITS (1) LES DROITS DES SALARIÉS
2	(2) LE CONTRAT DE TRAVAIL
3	CAS PRATIQUE:LE BULLETIN DE SALAIRE
4	LA FINANCE ET LES COMPTES (1) SE PROCURER DES CAPITAUX
5	(2) LES MARCHÉS FINANCIERS
6	(3) CAS PRATIQUE : L'ANALYSE DE BILAN
7	ENTREPRENDRE (1) SE METTRE À SON COMPTE
8	(2) IMPLANTER UNE ENTREPRISE
9	(3) CAS PRATIQUE:LA STRUCTURATION DE LA COMMUNICATION DANS L'ENTREPRISE
10	(1) DÉCRIRE UN PROCESSUS DE PRODUCTION
11	(2) L'ESPIONNAGE ET LA CONTREFAÇON
12	(3) CAS PRATIQUE:LA CONTREFAÇON
備考	



科目名	英語Ⅲ	担当者名	飛田ルミ
講義の目標	<p>本講座では異文化理解を深めながら、英語の4技能におけるコミュニケーションに必要なスキルを効果的に習得することを目標とする。具体的には、インプットした内容を自分自身で自由にアウトプットできる能力を獲得するために、インプットのリーディング及びリスニングでは英文の大意を正確に速く把握するストラテジーを、アウトプットのライティング及びスピーキングでは与えられたタスクに対して様々な表現法で自分の意見を提示できるストラテジーを意識して、実際に使える英語を身につけることが理想である。</p>		
講義概要	<p>英語のコミュニケーション能力の向上を目指し、イギリスの歴史、政治、文化、風習などを紹介したテキストを使用して、4技能を無理なくレベルアップできる訓練を行なう。テキスト以外にも、プリント、テープ、ビデオ教材などを使用し、ディクテーション、スピーチ、グループディスカッションの様なアクティブな練習を通し、自分の英語基礎能力を工夫して、コミュニケーション活動へとつなげる演習を行なう。</p>		
使用教材	テキスト	<p>In Britain マクミラン ランゲージハウス その他、テープ、ビデオを使用し、プリントも配布する。</p>	
	参考文献	<p>授業中に、適宜紹介。</p>	
評価方法	<p>前期・後期試験、レポート及び平常点（授業内での提出課題、発言、出席等）を総合して評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>予習及び課題、発表等が課されるので、授業に対する積極的態度を必要とする。</p>		

## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要についての解説：授業方針・評価方法等。 導入：The British Isles イギリスという国を再確認する。
2	Early invasions イギリスが侵略された歴史について。後半テープを利用し、会話を学習する。
3	Empire and democracy 英国議会の誕生、産業革命について。
4	The English language 英語史を簡略に学習する。
5	Politics 英国議会について。
6	The monarchy 英国王室、現女王の役割等を学習する。
7	Britain and the world, who are the British? イギリス在住の人々について。
8	The British year イギリスの年間行事についてリスニング教材を併用しながら学習する。
9	Arriving in Britain イギリスへの入国方法を空、海、陸から、リスニング教材を併用し、実際に入国前・後の手続き等について学習する。
10	At home イギリスの住宅情報について。また実際にフラットを借りる際の会話等を学習する。
11	At School. Higher Education イギリスの教育制度について。
12	Economy and industry, Food イギリスの経済及び食生活について。
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	Film and theatre, Music and nightlife イギリスの伝統文化、映画、演劇、音楽について。
2	Literature : the classics, Modern literature イギリスを代表する古典文学から現代文学までの概略を学習する。
3	Shops and shopping イギリスの買い物事情について実際の会話例も含めながら学習する。
4	Sport, Sport and leisure イギリスで行われたスポーツの歴史及び現代のスポーツ事情について。
5	In the street, Getting around town ロンドン市内の交通機関について。
6	On the road, Trains イギリスの交通事情について。
7	In the country イギリスの美しい田園地帯についてナショナルトラストの努力も含めて学習する。
8	Environmental issues イギリスの環境問題について。
9	London ロンドンの歴史、名所について。
10	London, the south of England ロンドン、イギリス南部について。
11	The Midlands and the North, Scotland イギリス中部、北部、スコットランドについて。
12	Wales, Northern Ireland ウェールズ、北アイルランドについて。
備考	

科目名	英会話 I - 2	担当者名	F. Fearn
-----	-----------	------	----------

講義の目標	<p>OBJECTIVES :</p> <p>to improve student</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- listening skills</li> <li>- conversational ability</li> <li>- command of vocabulary</li> <li>- confidence in using English</li> </ul>	
講義概要	<p>The course will be student centred with an emphasis on active participation. Students will take part in pair, group and whole class activities, discussions and presentations. Materials will be taken from a variety of sources.</p>	
使用教材	テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Materials to be decided</li> <li>2. Student suggestions welcome.</li> </ol>
	参考文献	
評価方法	<p>GRADING :</p> <p>Grades will be based on attendance, active participation, quizzes, presentations and tests.</p>	
受講者に対する要望など		

前期

年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	The precise materials and focus of the course will be determined by the general English level of students taking the course, their needs and interests.
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	英会話 I-3	担当者名	T.J.Fotos
-----	---------	------	-----------

講義の目標	<p>The main objectives and aims of this upper level English elective course for non-English majors are to increase the vocabulary and understanding of general English terms that will assist students in their future careers using English. All four skills of reading, writing, speaking, and hearing of English will be covered. The main emphasis will be on speaking and listening.</p>		
講義概要	<p>Several general interest newspaper and magazine articles will be studied. There will also be American movies which that will be viewed.</p>		
使用教材	テキスト	<p>Newspaper and magazine articles, as well as movie reviews will be handed out to students. Although there won't be any assigned course textbook, students should be prepared to use not only the usual Japanese-English, English-Japanese dictionaries, but also use of a simple, cheap, up-to-date English-English pocketbook dictionary would be good.</p>	
	参考文献	<p>There will be hand-outs or copies of various current or topical business related newspaper and magazine articles which will be read, studied and discussed in class to increase students' vocabulary of business and economic terms. Various American movies, with short written movie explanations will be watched. These movies will be "closed caption". That is, the words that one hears will appear in English typed on the screen. The main topics of the movies will be related to business, although additional cultural aspects of the U.S.A. will be studied, thereby improving inter-cultural understanding and listening comprehension, and speaking.</p>	
評価方法	<p>(% of course grade) Class attendance, discussion and participation (30%); first semester test (35%); and final examination (35%).</p>		
受講者に対する要望など	<p>Active class participation and regular attendance are important in determining the final course grade, so not only must the university rule of two-thirds of the classes be attended, but closer to 80% attendance would better assure that the students get something useful out of the course.</p>		

## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction and organization and interview evaluation
2	Topic and discussion
3	"
4	"
5	"
6	"
7	Review
8	Topic and discussion
9	"
10	"
11	"
12	Examination
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	Topic and discussion
2	"
3	"
4	"
5	"
6	"
7	Review
8	Topic and discussion
9	"
10	"
11	Summation of topic covered and final review.
12	Final examination.
備考	

科目名	英会話 I - 4	担当者名	R.M.Payne
-----	-----------	------	-----------

講義の目標	<p><i>Course Objectives:</i></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. to give students practice in building conversational and communicative skills</li> <li>2. to improve students' listening skills</li> <li>3. to expose students to the culture of the language</li> </ol>	
講義概要		
使用教材	テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>Text:</i> Everyday Situations for Communicating in English, (National Textbook Company) will be used as the primary source for this class.</li> <li>2. Complementary/supplemental listening materials and activities may be used as appropriate. Suggestions from students are welcome.</li> </ol>
	参考文献	
評価方法	<p><i>Grading System:</i> Grades in this class will be based on the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>attendance and participation:</i>50% This score will be based on the student's performance in class, preparation for class, and completion of assignments. If a student is absent or very late (more than 10 minutes) more than seven times, the student will receive a failing grade for the class. Two tardies will be counted as one absence.</li> <li>2. <i>tests and quizzes:</i>15%</li> <li>3. <i>assignments/homework:</i>35% Homework will be assigned in preparation for each lesson/chapter. This work will be marked simply either pass or fail.</li> </ol>	
受講者に対する要望など		

## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	Class Chapter name
2	"New York City's Battery Park" - a look at one historic entrance to the U.S.
3	"
4	"A City Street" - a scene from a "typical" large American city.
5	"
6	"On a Farm" - Not all Americans live in big cities. This unit will look at rural American life.
7	"
8	"At the Bank" - We will discuss the services provided by American banks
9	"
10	"At the Post Office" - How the U.S. Postal Service works and the services it offers.
11	"
12	exam / mid-year project
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	"At the Supermarket" - the important topic of buying food.
2	"
3	"At the Bus Station / Airport" - two ways to travel long distances in America.
4	"
5	"At a Motel" - where Americans stay when they're away from home.
6	"
7	"At the Beach" - a variety of outdoor sports and activities for warm weather.
8	"
9	"A Thanksgiving Day Dinner" - some of the customs and traditions of this holiday.
10	"
11	review
12	exam / final project
備考	



科目名	英会話 I-5	担当者名	G. Sweeney
-----	---------	------	------------

講義の目標	The course covers the skills of listening, speaking, reading and writing, with a particular emphasis on listening and speaking. The primary goal of the course is to teach the ability to communicate in English according to the situation, purpose, and roles of the participants.		
講義概要	Students will have an opportunity to improve their communication skills through such activities as group work, role play, interviews and discussion.		
使用教材	テキスト	J. Richards; Interchange 2 Cambridge University Press	
	参考文献	Additional handouts will be provided by the instructor.	
評価方法	Grades will be based on class attendance, class participation, and on a midyear and final test.		
受講者に対する要望など	This class is especially for those students eager to gain confidence when speaking English.		

## 前期

## 年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	Course introduction, instructor expectations and explanations.
2	Unit one: People and the past. Talking about oneself or someone else.
3	Unit two: Cities, locations. Talking about a city or hometown.
4	Unit three: Housing and prices. Describing homes and neighborhoods. Making comparisons.
5	Unit four: Travel and Vacations. Describing things to do in a city.
6	Review and group work.
7	Unit five: Requests and complaints. Making and responding to requests.
8	Unit six: Customs and holidays. Describing special events.
9	Unit seven: Life in the future. Comparing time periods and describing possibilities.
10	Unit eight: Jobs and skills. Describing people's qualities.
11	Review and group work.
12	Midterm Test.
備考	

## 後期

週	主 要 テ ー マ
1	Unit nine: world knowledge. Describing countries and landmarks.
2	Unit ten: Information about someone's past. Talking about past events.
3	Unit eleven: Movies and entertainers. Describing aspects of pop culture.
4	Review and group work.
5	Unit eleven: Proverbs and meanings. Explaining and reporting what people say.
6	Unit twelve: Money and hopes. Talking about predicaments.
7	Unit thirteen: Gadgets and machines. Describing what things are for.
8	Review and group work.
9	Unit fourteen: Food and restaurants. Describing experiences and giving instructions.
10	Unit fifteen : Giving advice.
11	Review and group work.
12	Final Test.
備考	

科目名	英会話 I-6	担当者名	L.Villeneuve
-----	---------	------	--------------

講義の目標	This course will give the students the chance to practice their spoken English, as well as their hearing skills in a context of different campus characters. Each class will consist of reading a story written in conversational English which can be understood by an ordinary college student with only a little dictionary help.	
講義概要	A dialog will be practiced in pairs during the last 30 minutes of the class.	
使用教材	テキスト	Campus Characters by William Hanson
	参考文献	A regular attendance and an active participation will be a heavy factor on deciding the final marks. A test will be given at the end of each semester. Senior students, who think they might not attend the majority of the classes, should look for another course or be prepared to read a book approved by the teacher and write a final report at the end of the second semester. The limit number of participants will be 40. I am looking forward to seeing motivated students.
評価方法	This is not from me.	
受講者に対する要望など	046 is NOT for students who studied in an English speaking country in the past. It is for average and lower level students.	

年 間 講 義 予 定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction
2	The B.M.O.C. - Kurt ..... 1
3	The Bookworm - Stan ..... 7
4	The Butterfingers - Alice ..... 13
5	The Brain - Fred ..... 19
6	The Worrywart - Harold ..... 25
7	The Gossip - Gloria ..... 31
8	The Princess - Betty ..... 37
9	The Freeloader - George ..... 43
10	The Chatterbox - Lucy ..... 49
11	The Teacher's Pet - Ruth ..... 55
12	The Final Examination
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	Review Of The Previous Semester
2	The Lady-killer - Larry ..... 61
3	The Wallflower - Agnes ..... 67
4	The Prom Queen - Donna ..... 73
5	The Wimp - Wilbur ..... 79
6	The Bully - Dick ..... 85
7	The Scatterbrain - Helen ..... 91
8	The Jock - Jeff ..... 97
9	The Cheerleader - Patsy ..... 103
10	The Sleepyhead - Sam ..... 109
11	The Hot Rodder - Peter ..... 115
12	The Final Examination
備考	

科目名	フランス語学概論（94年度以降）	担当者名	古川直世
-----	------------------	------	------

講義の目標	フランス語という外国語がまず「習得する」対象であることは当然であるが、習得する対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを学生に理解させることをめざす。より具体的には、フランス語学を選んで大学院進学を考えている学生には学習から研究への意識の転換をうながすこと、その他の学生には「考える」訓練によってフランス語に対する知的好奇心を引き出すことを目標とする。		
講義概要	フランス語の仕組みについて出来るかぎり全般的な知識を与えるべく講義を行うが、講義の重点はフランス語の構文に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。なぜ Elle a les yeux bleus という構文において直接目的語の名詞は身体部分を表す名詞でなければならないのか？ Il y a une place de libreは容認可能であるのに Il y a une place de confortableが容認可能でないのはなぜか？ さらに、Il y a une place de confortableに ne... queを加えた文 Il n'y a qu'une place de confortableが容認可能になるのはなぜか？ このような問題を我々の母国語である日本語を手がかりにしながら考えていく。		
使用教材	テキスト	プリントを配付する。	
	参考文献	講義中に随時指示する。	
評価方法	評価は出席状況とレポート提出による。		
受講者に対する要望など			

前期

週	主 要 テ ー マ
1	全般的なオリエンテーション。
2	音韻体系。
3	関係節の諸相：制限的關係節，同格的關係節，疑似關係節。
4	
5	構文の分析（1）：Le facteur qui passe! 型構文。
6	
7	構文の分析（2）：Il y a beaucoup d'Américains qui aiment l'opéra 型構文。
8	
9	構文の分析（3）：Elle a les yeux bleus 型構文。
10	
11	構文の分析（4）：Il y a une place de libre 型構文。
12	前期のまとめ。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	冠詞の体系（1）：定冠詞の機能，英語の定冠詞との比較。
2	
3	冠詞の体系（2）：不定冠詞と部分冠詞の機能。
4	
5	動詞の体系（1）：法と時制。
6	
7	動詞の体系（2）：代名動詞と受動態。
8	
9	副詞：時の副詞の位置とその機能。
10	形容詞：形容詞の位置とその機能。
11	代名詞：代名詞と照応。
12	後期のまとめ。
備考	

科目名	フランス文学概論	担当者名	井村 順一
-----	----------	------	-------

講義の目標	近代フランス語形成期にあたる古典期（17・18世紀）の文学作品を概観し、それらが言語文化史上どのような位置を占めるかを検討する。		
講義概要	この時代の特徴をつかんだうえで、講義予定欄に名前をあげた作家を中心にその業績を説明する。随時フランス語のテキスト抜粋を用いるが、初学者にも理解できるように解説する。なお受講者の理解度に応じて講義予定の進度・内容を若干変更することもありうる。		
使用教材	テキスト	適宜プリントを使用する。	
	参考文献	講義の内容に応じそのつど指示する。	
評価方法	各学期末に、各自の見解を問う論述式の筆記試験を行う予定。		
受講者に対する要望など			

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	<p>〈時代の概観〉 近代フランス語の位置づけ。政治・文化史上の概観。詩人=文法家マレルブ。「アカデミー・フランセーズ」。言語と社会制度との関係。</p>
3	
4	
5	<p>〈文芸サロンとその周辺〉 サロンの成立過程。サロンと文学との関係。「プレシオジテ」の問題。バロック小説。</p>
6	
7	
8	
9	<p>〈ルイ13世時代・摂政時代〉 デカルト, コルネイユ, パスカル。文構成の工夫。</p>
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	<p>〈劇文学の意味〉 コルネイユ (つづき)。モリエールの喜劇。ラシーヌの悲劇。</p>
3	
4	
5	<p>〈ルイ14世時代の他の作家〉 ラ・フォンテーヌ。セヴィニエ夫人, ラ・ファイエット夫人。「プレシオジテ」の去就。</p>
6	
7	
8	
9	<p>〈17世紀末から18世紀へ〉 ラ・ブリュイエール, ヴォルテール, マリヴォー。文構成の変化。</p>
10	
11	
12	<p>〈結論 - 古典期文学の意味〉</p>
備考	



科目名	フランス語史	担当者名	山田秀男
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>フランス語の文法を学んでも、何故そうなるのか分からないことが少なくない。例えば、travail の複数形は travaux だとはいっても、何故そうなるのかは誰も教えてくれないだろう。現代フランス語が形成されていく過程を見ることによって、こうした疑問を解明し、フランス語に関する知識と理解を一段と深めることを目指す。</p>		
講義概要	<p>フランス語の母体であるラテン語から出発し、さまざまな時代の多くの人びとの努力によって、現代フランス語が形成されるまでの主要な流れを概観する。</p> <p>各時代のフランス語の特徴を理解するため、まず、それぞれの時代の歴史的背景・社会的状況を概観した後、その時代のフランス語を、語彙、発音と綴り字、文法・統辞論、といった具体的な面から検討する。そのあとで、各時代を代表する作家の作品を取り上げて、その時代のフランス語の文章の実例を見る。</p>		
使用教材	テキスト	山田秀男著『フランス語史』、駿河台出版社	
	参考文献	講義中に、必要に応じて指示し、紹介する。	
評価方法	評価は、出席点と定期試験またはレポートによる。		
受講者に対する要望など	出席を重視し、出席点を高くする。		

前期

週	主 要 テ ー マ
1	1年間の講義方針、講義内容、授業形態などの説明はもちろんのこと、参考文献案内から評価に関することまで全般にわたり、受講の決定に役立つあらゆる情報を提供する。
2	—古典ラテン語から俗ラテン語へ— ローマ帝国とガリアとの関係を中心に、歴史的背景を概観したのち、フランス語の母体であるラテン語の特質を見る。
3	つづいて、古典ラテン語と俗ラテン語、さらにロマン語についての概念を把握する。
4	—古フランス語— まず、古フランス語の歴史的背景や社会的状況を概観する。つづいて、古フランス語の語彙、発音、綴り字、文法・統辞論について学び、古フランス語の具体像を把握する。
5	実際の古フランス語の文例として、古フランス語による代表的作品である『ローランの歌』と『オーカッサンとニコレット』を引用し、古フランス語の特徴を確認する。
6	
7	—中期フランス語— ここでは、中期フランス語の前半期を取り上げる。まず、その時代である十四・十五世紀の歴史的背景・社会的状況を概観する。
8	つづいて、この時代のフランス語の語彙、発音、綴り字、文法・統辞論などの特徴を学び、中期フランス語（前半期）の具体像を把握する。
9	この時代のフランス語の実例として、フロワサルとヴィヨンの作品を引用して、当時のフランス語を、散文と韻文の両面から検討する。
10	ここでは、中期フランス語の後半期を扱う。この時代は十六世紀で、フランスのルネサンス期にあたり、その歴史的背景・社会的状況はこれまでより以上に言葉と大きくかかわっていることを見る。
11	時代背景を通観したのち、この時期のフランス語の語彙、発音、綴り字、文法・統辞論を検討し、その具体像を把握する。
12	この時代のフランス語の実例として、デュ・ベレーとモンテーニュの文章を引用し、検討する。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	—古典フランス語— まず、十七世紀のいわゆる古典フランス語の時代の歴史的背景や社会的状況を、言語との関連において、通観する。
2	つづいて、古典フランス語の語彙、発音、綴り字の特徴を見たのち、文法・統辞論を、現代フランス語と比較しながら、検討する。
3	古典フランス語の実際を、ヴォージュラとパスカルの引用によって見るとともに、現代フランス語との違いを検討する。
4	—十八世紀フランス語— 十八世紀の時代背景を通観し、言語の面からこの時代の傾向と特色を見る。つづいて、十八世紀フランス語の語彙、発音、綴り字、文法・統辞論を概観し、その特徴を把握するとともに、現代フランス語との差異を検討する。
5	
6	ヴォルテールとルソーの引用によって、十八世紀フランス語の実際を見るとともに、現代フランス語との異同を検討する。
7	—十九世紀フランス語— 十九世紀フランス語の時代背景を通観し、言語との関連において、この時代の特徴を把握する。
8	つづいて、十九世紀フランス語の語彙、発音、綴り字、文法・統辞論を概観し、その特徴を探るとともに、この時期に生まれた新しい学問である言語学にも触れる。
9	十九世紀のフランス語に大きな影響を与えたユゴーとリトレの引用を読み、その特質を探る。
10	—現代フランス語— 第一次世界大戦後の時代背景・社会状況を、言語との関連において概観する。つづいて、現代フランス語、とりわけ第二次世界大戦後のフランス語の特徴を、語彙、発音、言語レベルなどの面から検討し、現代フランス語の特質と変化の傾向を探る。
11	
12	最後に、全体のまとめと、質疑応答による補足説明を行う。
備考	

科目名	フランス文学史 (94年度以降)	担当者名	山内宏之
-----	------------------	------	------

講義の目標	16世紀末から17世紀末にかけてのフランス文学の思潮, マレルブの詩の改革, 古典主義作家時代第1期, 第2期, そして, この第2期を終わるものとして, ボシュエに至るフランス文学の流れを講義形式で授業を行う。	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 古典主義時代への過渡期としてのレニエ。</li> <li>2 17世紀の概観。</li> <li>3 17世紀の文学, マレルブの詩の改革。</li> <li>4 プレシユーな社交界の成立。</li> <li>5 合理主義とデカルト。ピエール・コルネイユ, パスカル。</li> <li>6 ジャンセニズムとポール・ロワイヤル。</li> <li>7 ラ・ロシュフーコー, ラ・ファイエット夫人, ボワロー。</li> <li>8 モリエール, ラシーヌ, ラ・フォンテーヌ。</li> <li>9 モリエール, ラシーヌ, ラ・フォンテーヌ。</li> <li>10 ボシュエ。</li> </ol>	
使用教材	テキスト	G. Lanson : <i>Histoire de la Littérature Française</i> (コピーして配付する場合もある。) 但し, 引用するに留める。
	参考文献	「フランス文学史」饗庭孝男ほか: 白水社 (必ず買っておくこと。) 「フランス文学史」ランソン・テュフロ。中央公論社 その他, 講義中指示する。
評価方法	前・後期2回の試験による。第1回目の授業の時にすべて指示する。	
受講者に対する要望など	欠席しないこと。	

前期

週	主 要 テ ー マ
1	フランソワ1世と、その姉ナヴァール王妃マルグリット・ダンゲーレーム（マルグリット・ドゥ・ナヴァール）。マルグリットの作品「七日物語」（エプタメロン）。クレマン・マロ。
2	同上
3	古典主義時代への過渡期としてのレニエ。
4	17世紀の概観。
5	マレルブの詩の改革。
6	プレシユーな社交界の成立。
7	合理主義とルネ・デカルト。
8	ピエール・コルネイユ，パスカル。
9	同上
10	同上
11	ジャンセニスムとポール・ロワイヤル。
12	同上
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	ジャンセニスムとポール・ロワイヤル（続き）。
2	ラ・ロシュフーコー，ラ・ファイエット夫人。
3	同上
4	ボワロー。
5	モリエール。
6	同上
7	ラシーヌ。
8	同上
9	同上
10	ラ・フォンテーヌ，ボシュエ。
11	同上
12	ボシュエ。
備考	

科目名	フランス語学各論（94年度以降）	担当者名	小石 悟
	フランス語学特殊講義（93年度以前）		

講義の目標	論理的な文を書くために必要な文法を学習し、自分で書いてみる。	
講義概要	多少とも論理的な文を書こうとすると、原因・結果・譲歩・目的・仮定など文と文との関係を示す表現が必要になります。すべての項目を取り扱うことは不可能なので、前期は原因・結果・譲歩を表す表現、後期は日本人にとっては最もやっかいな問題である冠詞を取り上げます。どの場合でも必ず練習問題や作文によって確実に使えるようになることを目指します。	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	
評価方法	宿題とテスト	
受講者に対する要望など	楽しんで単位を取ろうと思う人には向いていません。	

科目名	フランス文学各論	担当者名	鈴木道彦
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>西欧の20世紀文学の代表作といえば、カフカ、ジョイス、プルーストなどがすぐ頭に浮かびますが、とりわけプルーストは20世紀最大の古典で、今日のフランスで彼を読まずに小説を書く人は、おそらく皆無に近いでしょう。そのプルーストを通して20世紀文学の本質を考察し、小説の面白さを発見してもらうのが、本講義の目標です。</p>		
講義概要	<p>まず前の時代との対比で、20世紀文学の問題点や特徴のいくつかを指摘した後に、プルーストの生涯や作品を分かり易く解説しながら、小説の読み方を深め、かつ小説の原理的な問題を考えてゆきます。プルーストの『失われた時を求めて』は、実にさまざまな主題を扱っている壮大な世界なので、これを解読することは現代生活の多岐にわたる問題を考えることに通じます。したがって、古典が現実の私たちの生活に何をもたらすかを考えるのも、重要な主題になるでしょう。</p> <p>これまであまり小説に親しんでこなかった人たちにも分かるような講義を目指しますので、受講者の理解度により、内容に多少の変更を加えることもあり得ます。</p>		
使用教材	テキスト	コピーを配付します。	
	参考文献	<p>タディエ『二十世紀の小説』大修館書店、1995年。          プルースト『失われた時を求めて』上下、集英社、1992年。</p>	
評価方法	年2回の論述式テストもしくはレポートによる。		
受講者に対する要望など	講義の各部分は有機的につながっているので、継続して受講すること。		

前期

週	主 要 テ ー マ
1	小説とは何か。20世紀小説の源流。その特徴と問題点。マルセル・ブルーストの誕生。日本におけるブルーストの受容史。『失われた時を求めて』の時間的構造。
2	
3	
4	
5	以下は『失われた時を求めて』を筋を追って紹介しながら、次のようなテーマにふれてゆく。自伝と小説。〈私〉とは何か。ブルーストの〈私〉。一人称小説の系譜。記憶の形態。幼少期の意味。想像と夢。
6	
7	
8	
9	社交界の変遷。貴族とブルジョワのサロン。ダンディとスノブ。世紀末のユダヤ人。近代における反ユダヤ主義の発生と展開。サロンにおけるユダヤ人の位置。
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	ドレーフュス事件と差別の構造。同性愛者とユダヤ人。同性愛の文学。その系譜と意味。現代文学におけるその重要性。
2	
3	
4	
5	独創的な作家・芸術家の見出したもの。ブルーストにおける〈失われた時〉の発見の意味。芸術による救済の可能性。いわゆる〈小説の小説〉論の意義と危険について。
6	
7	
8	
9	19世紀小説と20世紀小説。現代文学におけるブルーストの意義。彼以後の文学（ヌーヴォー・ロマン、ヌーヴェル・クリティックなど）の傾向について。全体のまとめ。
10	
11	
12	
備考	

科目名	フランス語学講読 1 (94年度以降) フランス語講読 1 (93年度以前)	担当者名	青木 一郎
-----	---	------	-------

講義の目標	フランス語の学習も基礎的な文法の勉強から始めて、2年間で一応の水準に達したものと思います。更にフランス語の力を向上させるために、フランス語の文体の勉強をしたいと思います。文体といっても、小説の文章を分析しようなどと言うものではありません。幼児語や俗語から、文学的表現まで、口語表現から文学的描写まで、フランス語による表現にはいかなるものがあるか、全般に亘って勉強してみましょう。このテキストは1974年に出版されたものですが、基本的なものを扱ったテキストですから、現在でも充分有益なものと思います。
講義概要	このテキストの原著は、第1部が文体の基礎知識、第2部が作詩法の基礎、第3部がフランス語の歴史の概要、の3部から成り立っています。 そのうちの第1部を読むことにしますが、50頁程度のテキストですから、充分1年間で読み通せると思います。 なお、この著者H. Bonnardにはフランス語中級文法を扱った「Grammaire française des lycées et collèges」という本がありますので、適時参照して行きたいと思います。
使用教材	テキスト H. Bonnard 「Notions de Style, de Versification et d'Histoire de la langue française」(SUDEL) (プリント) 参考文献 H. Bonnard 「Grammaire française des lycées et collèges」(SUDEL) 松原秀治, 松原秀一「フランス語らしく書く」(白水社) 朝倉季雄「フランス文法事典」(白水社)
評価方法	評価は、前期後期とも定期試験期間中に行うテストによって決定する。
受講者に対する要望など	



科目名	フランス語学講読 2 (94年度以降)	担当者名	山田秀男
	フランス語講読 11 (93年度以前)		

講義の目標	この講読の授業で目標とするところは、ただ一つである。それは、「辞書を引けば、どんなフランス語の文でも読める」ような力をつけることである。	
講義概要	上記の目標を達成することは容易ではない。これに一步でも近づくためには、着実な努力を積み重ねていく以外に道はない。 最初は、勉強の仕方、問題点の調べ方、どのような文献や辞書があり、それらをどのように利用すればよいか、といったことを中心に、質疑応答なども交えて、疑問点を残さないようにして進めていき、次第に本格的な解読へと入っていくようにしたい。	
使用教材	テキスト	M.-N. GARY-PRIEUR : <i>De la grammaire à la linguistique</i> , 2 <sup>e</sup> ed., 1985, Paris, Armand Colin.
	参考文献	授業中に、必要に応じて、指示し、紹介する。
評価方法	年に何回か担当してもらい、それを中心にした平常点と出席状況とを加味して評価する。	
受講者に対する要望など	フランス語の読解力をつけたい者を歓迎する。 なお、四月の最初の授業に出席しなかった者の登録は、原則として認めない。	

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	『文法から言語学へ』と題されたこのテキストは、文法的な考え方と言語学的な考え方を比較・紹介しながら、文法から本格的なフランス語学の入門へと導いていく内容であり、第一部と第二部に分かれている。
6	二年間で全体を読み終える予定なので、一年目は、第一部を読むことになる。さらに、この第一部は、四つの章からなっているので、前期は、ほぼ、第一章と第二章を読むことになるであろう。
7	なお、一回の授業でどれだけ進むかを、あらかじめ決めておくようなことはせず、十分な時間をかけて、丁寧に、とりわけ初めのうちはゆっくり、読んでいくようにしたい。つまり、量より質を重視する方針である。
8	ちなみに、第一章のタイトルは、「勉強の道具：文法書と辞書」であり、第二章のタイトルは、「文の定義」である。
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	後期は、第一部の後半、すなわち第三章と第四章とを読む。
7	第三章のタイトルは、「文と発話」であり、第四章のタイトルは、「容認可能な文とその他の文」である。
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	フランス文学講読 1 (94年度以降) フランス語講読 3 (93年度以前)	担当者名	井村 順一
-----	---	------	-------

講義の目標	19世紀の作家ギュスターヴ・フロベールの中編小説を講読する。	
講義概要	演習形式で授業を進め、作品の構成を検討し、同時にフランス語の読解力を養う。とくに動詞過去時制に関する読解を重視する。	
使用教材	テキスト	開講時に指示する。
	参考文献	
評価方法	各学期末に訳読を主体とする筆記試験を行う予定。これに授業への参加度を加味して評価する。	
受講者に対する要望など	受講者は25名程度とする。毎回下調べをし欠席しないこと。	

科目名	フランス文学講読 2 (94年度以降)	担当者名	筒井伸保
	フランス語講読 7 (93年度以前)		

講義の目標	レジスタンス文学の傑作であるヴェルコールの「海の沈黙」を読みます。	
講義概要		
使用教材	テキスト	Vercors, <i>Le Silence de la mer</i> (Le Livre de poche)
	参考文献	
評価方法	定期試験および授業への参加度（出席・予習の程度）による。	
受講者に対する要望など	人数は30人程度を限度とします。この科目を取ろうと思う人は必ず1回目の授業に出て下さい。	

科目名	フランス文学講読 3 (94年度以降) フランス語講読 8 (93年度以前)	担当者名	根本 祐 徳
-----	---	------	--------

講義の目標	ボードレールの散文詩を講読する。		
講義概要	毎回, 4, 5 人の人に訳を担当してもらい, それに説明を加える。		
使用教材	テキスト	Charles Baudelaire : <i>Le Spleen de Paris</i> 芸林書房	
	参考文献		
評価方法	前・後期各1回のテストと授業への参加度によって評価する。		
受講者に対する要望など	受講者は25名程度とする。		

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	フランス文学講読 4 (94年度以降) フランス語講読 12 (93年度以前)	担当者名	山内宏之
-----	--	------	------

講義の目標	<p>Alexandre Dumas, fils (アレクサンドル・デュマ、フィス 1824~1895) の《La Dame aux camélias》『椿姫』(1848)を読む。フィスというのは、『三銃士』や『モンテ・クリスト伯』を書いた同名の父と区別するためであった。デュマ・フィスは、『椿姫』で世界的に文名を馳せた。彼にとっては、これは処女作であり、有名な、若き日の純愛の悲歌(エレジー)である。彼は、5幕の戯曲にした。これが好評だったので、これから、オペラ台本が作られ、ヴェルディー作曲の《La Traviata》『ラ・トラヴィアータ』が人気を集めた。『椿姫』を読む。</p>		
講義概要	<p>『椿姫』を読む。此の作品の原書に接し、原文を読むことによって、19世紀の、華麗にして、悲しい恋物語を学生たちに味あわせたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>Alexandre Dumas, fils : 《La Dame aux camélias》(Le Livre de Poche 版)を使用する。</p>	
	参考文献	<p>第1回目の授業の時に指示する。なお、参考文献として、岩波文庫『椿姫』吉村正一郎訳を読んで、ストーリーを知り、原文の解釈に難しい所があった場合にも、参考として役立つであろう。但し、訳書に頼り切らないことが必要である。</p>	
評価方法	<p>第1回目の授業の時に指示する。出欠も評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>第1回目の授業の時に指示する。</p>		

前期

年 間 講 義 予 定

週	主 要 テ ー マ
1	年間の授業方針等、すべて此の時に指示する。
2	『椿姫』について解説する。
3	『椿姫』を読む。
4	『椿姫』を読む。
5	『椿姫』を読む。
6	『椿姫』を読む。
7	『椿姫』を読む。
8	『椿姫』を読む。
9	『椿姫』を読む。
10	『椿姫』を読む。
11	『椿姫』を読む。
12	『椿姫』を読む。
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	『椿姫』を読む。
2	『椿姫』を読む。
3	『椿姫』を読む。
4	『椿姫』を読む。
5	『椿姫』を読む。
6	『椿姫』を読む。
7	『椿姫』を読む。
8	『椿姫』を読む。
9	『椿姫』を読む。
10	『椿姫』を読む。
11	『椿姫』を読む。
12	『椿姫』を読む。
備考	



科目名	フランス文学講読 5 (94年度以降) フランス語講読 13 (93年度以前)	担当者名	横地卓哉
-----	--	------	------

講義の目標	<p>*小説に親しむ。</p> <p>*テキストを目にしていなくても、聞いているだけでわかるような朗読ができるようにする。</p>	
講義概要	<p>いくつかの有名な小説の冒頭部を読みます。聞いてもわかるフランス語をめざしますから、授業でも声を出してよむことに重点をおきます。また、かなりの量の文章を暗記していただきます。</p> <p>最初は Saint-Exupéry, <i>Le Petit Prince</i> から始めます。</p>	
使用教材	テキスト	プリント
	参考文献	
評価方法	前期・後期の定期試験および平常点などで評価する。	
受講者に対する要望など	受講者数を30名程度に制限します。受講希望者は第一回めの授業に必ず出席すること。	

科目名	フランス文学講読 6 (94年度以降)	担当者名	M. 水 林
	フランス語講読 14 (93年度以前)		

講義の目標	Se lancer dans la lecture d'un texte littéraire français sans appréhension et surtout sans dictionnaire français-japonais.		
講義概要	<p>Avec la lecture suivie du <i>Trio en mi bémol</i> d'Éric Rohmer, nous pénétrons dans l'intimité d'un couple français bien d'aujourd'hui, Paul et Adèle qui ont vécu ensemble mais qui se sont quittés il y a un an tout en conservant des relations amicales... Cependant, à la fin, ils se retrouvent après un quiproquo dont seul Rohmer a le secret. Ce texte sera pour nous l'occasion de parler de la musique et de la complexité du sentiment amoureux.</p> <p>La lecture de ce texte nous permettra, parallèlement à un travail proprement linguistique et littéraire, de réfléchir sur la place du livre dans notre vie quotidienne</p>		
使用教材	テキスト	Éric Rohmer, <i>Trio en mi bémol</i> , notes et variations par H. Takahashi/G. Mehrenberger/T. Azuma, Éditions Hakusuisha.	
	参考文献	Un dictionnaire français. Par exemple, le <i>Dictionnaire du français langue étrangère niveau II</i> , ou bien le <i>Dictionnaire du français contemporain</i> . Ces deux dictionnaires, publiés chez Larousse, sont diffusés au Japon en format de poche aux éditions Surugadaï-shuppansha.	
評価方法	Deux rapports à remettre dans l'année.		
受講者に対する要望など			

科目名	フランス文化・社会概論（94年度以降）	担当者名	根本祐徳
-----	---------------------	------	------

講義の目標	フランス語、フランス文化、フランス文学などを学ぶ上で、必要な基礎的知識を獲得してもらうことを目標とする。		
講義概要	フランスの地理、歴史、文化、生活の四つの部分からなる予定である。		
使用教材	テキスト	「フランス」ミシュラン・グリーンガイド実業之日本社	
	参考文献		
評価方法	年数回のレポートによって評価する。		
受講者に対する要望など			

前期

週	主 要 テ ー マ
1	フランスの国家
2	フランス人
3	フランスの地理
4	フランスの地理
5	フランスの地理
6	フランスの地理
7	フランスの歴史
8	フランスの歴史
9	フランスの歴史
10	フランスの文化—美術
11	フランスの文化—建築
12	フランスの文化—文学
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	フランスの文化—文学
2	フランスの文化—文学
3	フランスの文化—思想
4	フランスの文化—思想
5	フランスの文化—音楽
6	フランスの文化—音楽 (シャンソン)
7	フランスの文化—映画
8	フランスの文化—写真
9	フランスの生活—教育
10	フランスの生活—ファッション
11	フランスの生活—ジャーナリズム
12	
備考	

科目名	フランス事情	担当者名	横地卓哉
-----	--------	------	------

講義の目標	* フランスの社会や文化の特質を幅広く検討する。		
講義概要	本講義は複数の担当者によって行われます。政治・経済から生活文化にいたる様々な分野について、毎回具体的な問題を取りあげながら検討します。		
使用教材	テキスト	特定の教科書は用いませんが、適宜プリントなどを配布します。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・菅野昭正ほか編『読む事典フランス』三省堂, 1990年刊</li> <li>・新倉俊一ほか編『事典現代のフランス(新版)』大修館書店, 1985年刊</li> <li>・Gérard MERMET. <i>Franscopie 1993</i>, Larousse, 1992.</li> <li>・その他の文献については教室で指示する。</li> </ul>	
評価方法	レポート, 出席回数など。		
受講者に対する要望など	講義スケジュールや評価方法について, 第一回目に説明を行いますので, 受講希望者は必ず出席すること。		

科目名	フランスの地誌	担当者名	鈴木 隆
-----	---------	------	------

(後期完結)

講義の目標	フランスにおける人間の生活の場としての地域の実情，課題およびそれへの取組み方について知ると同時に，その特徴および一般性などについて考える。		
講義概要	まず地域の概念の多様性および人間の生活の場としての地域を捉える指標などについて説明する。その後、便宜上、行政区分としての地域を目安として、順次、各地域の実情等を見てゆく。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	講義の中で適宜示す。	
評価方法	前期および後期の試験またはそれに準じるレポートをもって評価する。		
受講者に対する要望など			

前期

週	主 要 テ ー マ
1	地域の概念と実体
2	フランスの国土と地域区分
3	中心地と地域
4	パリとパリ大都市圏とイル・ド・フランス地域
5	パリ一時間圏
6	パリと地方
7	シャンパーニュ・アルデンヌ地域
8	ピカルディ地域
9	オート・ノルマンディ地域
10	ピカルディ地域
11	中央地域
12	ノルマンディ地域とブルターニュ地域
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	ペイ・ド・ラ・ロワール地域とポワトゥ・シャラント地域
2	アキテーヌ地域
3	ミディ・ピレネ地域
4	ラングドック・ルシヨン地域
5	プロヴァンス・アルプ・コートダジュール地域
6	ブルゴーニュ地域
7	オーベルニュ地域とリムザン地域
8	ロレーヌ地域
9	アルザス地域とフランシュ・コンテ地域
10	ノール地域
11	都市網と地域
12	ヨーロッパの中の地域
備考	

科目名	フランスの歴史	担当者名	藤田朋久
-----	---------	------	------

講義の目標	* フランス史の基礎的な知識を習得する。		
講義概要	4月から10月にかけて、16回の講義で、古代から近代までの概説を行います。その後は、より個別的な問題について論じる予定です。		
使用教材	テキスト	プリント配布	
	参考文献	井上幸治編『フランス史』山川出版社 河野健二『フランス現代史』山川出版社 柴田三千雄ほか編『世界歴史大系・フランス史』全3巻, 山川出版社 (その他の文献は、授業で指示する)	
評価方法	レポート, 小試験, 出席点など		
受講者に対する要望など	第一回目に授業の進め方について説明しますので、必ず出席してください。		



科目名	フランスの思想（94年度以降） フランスの哲学（93年度以前）	担当者名	佐藤正之
-----	------------------------------------	------	------

講義の目標	近代フランス文化の形成期ともいえる十六世紀から十八世紀のフランス哲学思想を概観し、現代フランス文化の精神的源流についての知識と理解を深める。すぐれた思想家たちが探求した問題は、彼らが生きた時代と社会に固有のものであると同時に、幾世代を経た今日なお、あらためて問いなおされる問題群を構成し、受講生諸君の関心を惹くであろう。		
講義概要	ルネサンスからフランス革命前まで、時代を追って概説講義する。とくに、十六世紀のモンテーニュ、十七世紀のデカルト、パスカル、十八世紀のヴォルテール、ルソーにスポットライトをあてて、これら代表的思想家の著作にも原典抜粋あるいは翻訳により直接触れながら、やや詳しく解説する。		
使用教材	テキスト	特に定めない。適宜プリントを配布使用する。	
	参考文献	講義中に随時紹介する。	
評価方法	前期および後期それぞれレポートによる。課題は教室で提示する。		
受講者に対する要望など			

前期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の目標, 年間プラン, 参考文献, 評価方法
2	十六世紀思潮概観——中世からルネサンスへ
3	モンテーニュの時代: ユマニズムと宗教改革 (1)
4	モンテーニュの時代: ユマニズムと宗教改革 (2)
5	モンテーニュ (1) : 《Que sais-je?》
6	モンテーニュ (2) : 人間性の探求
7	十七世紀思潮概観: 科学革命, 異教思想, 自由思想
8	デカルト (1) : Raison=Bon sens——誰もがもっている正しい判断力
9	デカルト (2) : ゆるぎない真理を求めて, 真理探求の準則と仮の道徳
10	デカルト (3) : 「考える私」の存在——方法的懐疑から哲学の原理確立へ
11	デカルト (4) : 心と物の二元論
12	(未定)
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	パスカル (1) : 幾何学の精神と繊細の精神
2	パスカル (2) : 人間の偉大と悲惨
3	パスカル (3) : 宿命と人間の自由意志
4	パスカル (4) : 理性と心情
5	十八世紀思潮概観=啓蒙思想家たち
6	ヴォルテール (1) : 合理主義と経験論——「イギリス便り」
7	ヴォルテール (2) : 寛容思想
8	ディドロと「百科全書」
9	ジャン=ジャック・ルソー (1) : 「人間不平等起源論」——文明社会の批判
10	ジャン=ジャック・ルソー (2) : 「社会契約論」——個人と社会
11	(未定)
12	Conclusion
備考	

科目名	フランスの美術	担当者名	前川久美子
-----	---------	------	-------

講義の目標	美術作品を研究（鑑賞）するための力を養う。	
講義概要	<p>フランスの作品に限定せず，西欧の美術作品全般を視野に入れる。地域文化研究（西洋美術史）の応用編と考えてほしい。</p> <p>本年度は，「美術作品の鑑賞者」に関する問題を，主として欧文テキストを読むことによって，とらえる予定。これは，きわめて重要な考え方であり，近年さかんに論じられているにもかかわらず，日本語での紹介がいささか遅れている。15世紀（ルネサンス）の絵画が中心となる。一方的な「講義」ではなく，聴講者が積極的に予習，発表，議論してゆく。</p>	
使用教材	テキスト	John Shearman, <i>Only Connect...</i> , Princeton, 1992.
	参考文献	基本文献は授業時間中に話す。
評価方法	人数が多い場合はテスト。	
受講者に対する要望など	例年，仏語学科以外の学生も聴講するため，主として英語のテキストを学習する。英語を読み，美術に関心をもち，学習意欲のあるものならだれでも歓迎する。ただし，独，仏語を第一外国語とする学生が参加してくれれば，さらに内容が充実すると思う。	

前期

週	主 要 テ ー マ	
1	イントロダクション	
2		
3	教材の訳読。特定主題に関する発表など。	
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
備考		

後期

週	主 要 テ ー マ
1	夏休みの課題の発表。教材の訳読など。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	フランスの音楽	担当者名	松橋麻利
-----	---------	------	------

講義の目標	今年度は、フランス音楽のもっとも実りある時代、19世紀後半から20世紀全般に焦点を当て、21世紀への変化の方向を探る。		
講義概要	<p>前期は、20世紀音楽に多大な影響を与えたドビュッシーと、その周辺の作曲家フォーレ、サティ、ラヴェル、そしてヴァーグナーらの音楽語法を中心に解説する。</p> <p>後期は、メシアン、ブーレーズなども取り上げるが、他の国の動向にも目を配り、音楽における国や民族の意味がどのように変わっていくのかを見る。</p> <p>年間講義予定は年度始めに配布。</p>		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献	<p>寺西春雄著「音楽史のすすめ」(1983)</p> <p>井上和男著「音楽の世界史」(1994)</p> <p>柴田南雄著「西洋音楽史－印象派以後」(1967)</p> <p>P. グリフィス著「現代音楽小史－ドビュッシーからブーレーズまで」(1984)</p> <p>P. グリフィス著「現代音楽－1945年以後の前衛」(1987)</p> <p>(いずれも音楽之友社刊)</p>	
評価方法	前・後期各1回の試験と出席率		
受講者に対する要望など	音楽に積極的な関心をもつ学生を歓迎する。		

科目名	フランスの演劇	担当者名	江花輝昭
-----	---------	------	------

講義の目標	フランス18世紀の重要な思想家で、劇作家・演劇理論家でもあったディドロ（1713-1786）の対話形式のエッセイ『逆説・俳優について』を手がかりに、なぜ近代初期になって初めてヨーロッパに職業的俳優が出現したのか、「演技する身体」と「近代」とはどのようにかわり合うのか、といった問題を社会学的知見も交えて考察します。
講義概要	授業は原則として講義形式で行います。まず作品理解の前提として、中世以来のヨーロッパにおける「俳優」の歴史をたどり、社会の中における演劇の役割について考えます。ついでエッセイの分析に移り、そこから導き出される諸問題を考察します。最後に作品分析を踏まえて、近代から現代に至る演劇の流れの中における俳優の位置付け、その社会的役割等について考えます。
使用教材	テキスト ドニ・ディドロ『逆説・俳優について』（プリント）
	参考文献
評価方法	学年末にレポートを提出してもらいますが、レポート提出の権利を一定の出席率を満たした人のみに限定します。
受講者に対する要望など	テキストについては翻訳を使用しますので、フランス語力はそれほど求めません。演劇に関心があり、自分の頭で考える意欲と能力を持った人を歓迎します。授業に出席することがまず何より肝心です。

前期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	<p>前期では、まず中世以来の「俳優」の歴史を時代を追って考察し、それぞれの時代における演劇の社会的位置づけについて追究します。ついでディドロの作品分析に移り、順を追って解釈、引用、補足説明などを加えながら、そこから導き出されるテーマ群について解説します</p>
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	<p>後期では、引き続きディドロの作品分析を行い、最後に総括として、近代から現代に至る社会の中で俳優はいかなる役割を果たしているのか、といった問題を考察します。</p>
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	フランスの経済	担当者名	千代浦 昌 道
-----	---------	------	---------

講義の目標	フランス経済の歴史と現状を学び、その知識を国内・国外の経済・社会問題についての正しい見方・考え方に役立てること。		
講義概要	<p>前期は、フランス経済の現状の概観を説明した上で、現在のフランス経済の歴史的背景を形成している主に18世紀の産業革命以後のフランスの経済発展史について講義する。</p> <p>後期は、特に第二次世界大戦以後のフランス経済の成長と変遷を、企業国有化と経済計画の流れに沿って説明する。</p>		
使用教材	テキスト	Japan 1997 : An International Comparison (経済広報センター, 1996)	
	参考文献	井上幸治編『フランス史(新版)』(1974, 山川出版社) 清水貞俊編『フランス経済を見る目』(1984, 有斐閣) 原 輝史編『フランスの経済』(1993, 早稲田大学出版部)	
評価方法	前後期, 2回の定期試験による。		
受講者に対する要望など	日本語, 外国語を問わず, 新聞, 雑誌の政治・経済記事を読む習慣をつけること。とくにフランス関係の記事を見逃さないこと。		



前期

週	主 要 テ ー マ
1	(1) 授業の進め方, テキスト・参考文献, 成績評価方法などについての説明 (2) 最近のフランスの政治経済情勢についての基礎知識
2	(1) 簡単な経済専門用語の基礎知識, (2) フランス経済の基礎データの説明 (テキスト「Japan 1997: An International Comparison」を持参すること)
3	近代におけるフランス経済の発展: 経済発展と工業化についての基礎知識
4	近代におけるフランス経済の発展: フランスの産業革命の特徴
5	近代におけるフランス経済の発展: 産業革命前史1 (旧体制下の経済と社会)
6	近代におけるフランス経済の発展: 産業革命前史2 (フランス大革命とナポレオン1世の時代)
7	近代におけるフランス経済の発展: 農業と産業革命
8	近代におけるフランス経済の発展: 工業化と人口問題
9	近代におけるフランス経済の発展: 天然資源と工業化
10	近代におけるフランス経済の発展: 国内産業の保護, 植民地経営と工業化
11	近代におけるフランス経済の発展: 金融制度の発展と工業化
12	近代におけるフランス経済の発展: 工業化の社会的諸条件
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	戦後フランスの経済: 戦後フランスの政治と経済の変遷 [年表配布]
2	戦後フランスの経済: 経済計画と第1次国有化
3	戦後フランスの経済: ドゴールとポンピドゥーの経済政策
4	戦後フランスの経済: ジスカールデスタンとバール・プラン
5	戦後フランスの経済: 最近の基礎経済統計1 (テキスト: Japan 1997: An International Comparison)
6	戦後フランスの経済: 最近の基礎経済統計2 (テキスト: Japan 1997: An International Comparison)
7	戦後フランスの経済: 最近の基礎経済統計3 (テキスト: Japan 1997: An International Comparison)
8	戦後フランスの経済: ミッテラン大統領時代の経済政策1 (第2次国有化と社会主義政策) [資料配布]
9	戦後フランスの経済: ミッテラン大統領時代の経済政策2 (保革共存と民営化) [資料配布]
10	戦後フランスの経済: ミッテラン大統領時代の経済政策3 (欧州共同体とフランス経済)
11	戦後フランスの経済: シラク大統領の経済政策
12	戦後フランスの経済: まとめ (失業, インフレ, 貿易, フランスの地位など)
備考	

科目名	フランス文化・社会各論 1 (94年度以降) フランス文化特殊講義 1 (93年度以前)	担当者名	青木 一郎
-----	---	------	-------

講義の目標	20世紀美術の出発点とも云えるダダ・シュルレアリスム芸術について勉強します。現代美術は解りにくいとよく云われます。その原因の1つはシュルレアリスムにあると考えられています。そこで、ダダ・シュルレアリスムの美術をスライドなどを使って、なるべく解り易く解説して行きたいと思います。		
講義概要	<p>ダダ・シュルレアリスムについて、その歴史的背景、変遷、そしてその影響について解説します。美術に関する講義ですから、個々の作品について、スライドを見ながら解説して行きます。</p> <p>前期はダダ運動について、後期はシュルレアリスムを中心としてお話しいたします。</p>		
使用教材	テキスト	なし。毎回、講義の初めにその時間のプリントを配布します。	
	参考文献	<p>ハンス・リヒター「ダダー芸術と反芸術」 (美術出版社)</p> <p>ケネス・クウツ・スミス 「ダダ」 (PARCO)</p> <p>モーリス・ナドー「シュルレアリスムの歴史」 (思潮社)</p> <p>カーディナル, ショート「シュルレアリスム」 (PARCO)</p>	
評価方法	評価は、前期後期ともに定期試験期間中に行うテストによって決定する。		
受講者に対する要望など	なるべく欠席をしないこと。やむを得ず欠席した時は、次の講義の時までにプリントを取りに研究室に来ること。		

前期

年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

前期はダダのお話をします。チューリッヒ、ニューヨーク、パリ、ベルリンなど、各地域のダダ運動の歴史的  
重要性が異なりますので、必ずしも各地域に関して一回の講義というわけには行かないと思います。初回は勿論  
一年間の講義をどのように行うか、という話から始めますが、それに続いてダダの発生した歴史的背景の解説も  
行います。二回目からは、チューリッヒ、ニューヨーク、ベルリン、ハノーヴァー、ケルン、パリと各地のダダ  
について見て行きます。  
前期の終りには、ダダについて総合的に評価し、その影響についてもお話しします。

後期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後期はシュルレアリスムについて講義することになりますが、初回は、ダダの行き詰りから、どのようにして  
シュルレアリスム運動に転回して行ったか、という話から始めましょう。2回目以降は、シュルレアリスム運  
動に加わった芸術家達は、それぞれ非常に個性の強い人々でしたし、またこの運動が専らパリを中心としていま  
したので、毎回一人ずつの作家の話をする、という形をとりたいと思います。後半はこの運動の周辺にいた芸術  
家達の話をするようになるでしょう。  
最終回は勿論、全体のまとめのお話を致します。

科目名	フランス文化・社会各論 2 (94年度以降) フランス文化特殊講義 2 (93年度以前)	担当者名	筒井伸保
-----	---	------	------

講義の目標	16世紀フランス・ルネサンスの文化状況を概観する。世紀前半は当時の先進国イタリアからルネサンス文化が本格的に移入されるとともに、宗教改革の気運が急速に高まった。世紀後半は宗教改革の抗争の激化により泥沼の宗教戦争に陥りフランス社会は壊滅の危機に瀕する。しかし骨肉相食む戦乱は人間の運命についての深い考察を生み出し、宗教的寛容（信仰の自由）や国家主権の近代的理念をもたらした。芸術・文学が開花し人間尊重を謳歌する明るい面と、人間不信や現世否定、狂気や殺戮の暗い面とが交錯する複雑な時代状況を多角的に捉えたい。		
講義概要	講義は、フランス・ルネサンス文化に関する古典的名著である二つの研究書を輪読する形を中心に進める。主要な原資料を原文（16世紀のフランス語）で読むこともある。		
使用教材	テキスト	リュシアン・フェーヴル『フランス・ルネサンスの文明』（ちくま学芸文庫） 渡辺一夫『フランス・ルネサンスの人々』（岩波文庫）	
	参考文献		
評価方法	評価は各学期末のレポートと授業への参加度による。		
受講者に対する要望など			

前期

年間講義予定

週	主要テーマ	
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		前期はリュシアン・フェーヴル「フランス・ルネサンスの文明」を取り上げる。
8		
9		
10		
11		
12		
備考		

後期

週	主要テーマ	
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		後期は渡辺一夫「フランス・ルネサンスの人々」を取り上げる。
8		
9		
10		
11		
12		
備考		

科目名	フランス文化・社会各論B (94年度以降) フランス文化特殊講義B (93年度以前)	担当者名	B. Stevens
-----	---	------	------------

(後期完結)

講義の目標	フランス文学及び美術の解釈を通じて、フランス語圏の文化・社会状況・構造をより良く把握する。	
講義概要	主に近代フランス文学を題材にして、精神的・政治的側面から、フランス文化・社会を考察してみたい。現在予定している題材は、André MALRAUX “L’homme Précaire et la littérature” (1977), Albert CAMUS “L’homme révolté” (1951), Marcel PROUST “A la recherche du temps perdu” (1913-1922) である。なお、この講義は、ゆっくりとしてわかりやすいフランス語を使うつもりである。	
使用教材	テキスト	講義中に、参加学生との協議により決める。
	参考文献	講義中に指示
評価方法	平常点かテストにするか、それともレポートにするかは、講義の進行と学生の要望を検討することにより決める。	
受講者に対する要望など	積極的に参加する用意のある人が望ましい。	

科目名	フランス文化・社会講読 1 (94年度以降) フランス語講読 2 (93年度以前)	担当者名	井上 たか子
-----	--	------	--------

講義の目標	<p>テキストは、映画の誕生100年を記念して、無声映画時代から現代まで、ヨーロッパの女性たちが映画史のなかで果たしてきたさまざまな役割をふりかえり、それぞれの時代の女優や映画の特徴を描きだしたものです。フランス語を和訳するだけでなく、この100年の時代の流れや、その中で女性の変化にも関心をもって、学んでほしいと思います。</p>	
講義概要	<p>逐語訳ではなく、文全体の意味を捉える練習をします。また、フランスだけでなく多くの人名がでてくるので、その人たちについて調べることも必要になります。</p> <p>履修者に、予め半ページ程度の文を和訳してもらい、それをもとに全員で考えるかたちで授業をすすめます。みんなで日本語版のパンフレットを作るつもりで頑張りましょう。</p>	
使用教材	テキスト	<p>L'épopée des femmes dans le septième art, en Europe.</p> <p>テキストはプリントを用います。</p>
	参考文献	
評価方法	<p>平常点重視。出席重視（欠席・遅刻・早退は減点します）。</p>	
受講者に対する要望など	<p>受け身ではなく、積極的に授業に参加してほしい。分からないことは分かるまで質問するように。</p>	

科目名	フランス文化・社会講読 2 (94年度以降) フランス語講読 4 (93年度以前)	担当者名	江花輝昭
-----	--	------	------

講義の目標	主としてテレビニュースを教材として、聴解・読解を組み合わせた、総合的なフランス語能力の向上を目指します。		
講義概要	<p>3回の授業をひとつの単元として、次のような形で授業を進めます。</p> <p>1回目—一つの時事的なテーマを扱ったフランスの少年向け新聞の記事を、全員で読み合わせをする（あらかじめ記事はプリントで配ります）。</p> <p>2回目—同じテーマを扱ったテレビニュースを繰り返し見聞きしながら、理解に必要な単語・表現をチェックする。</p> <p>3回目—そのテレビニュースの transcription を和訳する（全員訳を提出する）。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	提出された訳による平常点に加えて、前後期2回の定期試験も行い、総合的に評価します。		
受講者に対する要望など	平常点を重視しますので、こまめに授業に出席しなければ単位が取れません。辞書を引くのが嫌いな人にも向いていません。受講者を制限するかもしれませんので、一回目の授業に必ず出席すること。		



科目名	フランス文化・社会講読 3 (94年度以降) フランス語講読 5 (93年度以前)	担当者名	小石 悟
-----	--	------	------

講義の目標	<p>Compréhension orale (聴解) の能力を高める。</p> <p>書かれたテキストはかなり難しいものが読めるのに、音になるとごく簡単なものでさえも理解出来ない人がときどきいます。この授業では自分の弱点がどこにあるかを見つけることを手助けし、学生自身がフランス語学習の自律性を身につけることを目指します。</p>		
講義概要	<p>単音の区別、語彙力の増加、compréhension globale (全体的な理解)、compréhension analytique (分析的な理解)、スピードに慣れる練習など様々な方法を使いながら、普通のスピードのフランス語を理解出来るようにしたいと思います。各週の授業内容は受講者のレベル、要望、進度等を考慮の上決定します。前期は既存の教材、後期はニュースのテープ・ビデオを使う予定です。</p>		
使用教材	テキスト	補助教材として適宜カセットを準備します。	
	参考文献		
評価方法	実際の訓練を行うので出席重視。評価はテストによる。		
受講者に対する要望など			

科目名	フランス文化・社会講読 4 (94年度以降) フランス語講読 6 (93年度以前)	担当者名	鈴木 隆
-----	--	------	------

講義の目標	都市の現象に関する文献を読むことを通して、フランス語の習得につとめると同時に、現代の都市の問題などについて考える。	
講義概要	受講者は与えられたフランス語文献を読んで発表し、それに対するコメントおよび補足説明を講義として行う。	
使用教材	テキスト	プリントを配布する。
	参考文献	
評価方法	平常の発表および学期末試験によって評価する。	
受講者に対する要望など		

前期

年間講義予定

週	主 要 テ ー マ
1	都市の美化について(1)
2	都市の美化について(2)
3	都市の美化について(3)
4	都市の美化について(4)
5	都市の美化について(5)
6	都市の美化について(6)
7	景観について(1)
8	景観について(2)
9	景観について(3)
10	景観について(4)
11	景観について(5)
12	景観について(6)
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	都市の移動性について(1)
2	都市の移動性について(2)
3	都市の移動性について(3)
4	都市の移動性について(4)
5	都市の移動性について(5)
6	都市の移動性について(6)
7	環境について(1)
8	環境について(2)
9	環境について(3)
10	環境について(4)
11	環境について(5)
12	環境について(6)
備考	

科目名	フランス文化・社会講読 5 (94年度以降) フランス語講読 9 (93年度以前)	担当者名	藤田朋久
-----	--	------	------

講義の目標	<p>* フランス中世社会に関する理解を深める</p> <p>* 史料分析の実際に触れる</p>		
講義概要	<p>昨年、一昨年につづき、中世の「聖人・聖遺物崇拜」に関する論文を読みます。今年は、特に voyage des reliques の問題を取りあげる予定です。</p>		
使用教材	テキスト	<p>Henri PLATELLE, "La violence et ses remèdes en Flandre au XI<sup>e</sup> siècle", <i>Sacris Erudiri</i>, XX, 1971、他 (コピー配布)</p>	
	参考文献	<p>渡辺昌美『中世の奇蹟と幻想』岩波新書 ——『フランスの聖者たち』大阪書籍</p>	
評価方法	<p>前期・後期レポート、出席点など</p>		
受講者に対する要望など	<p>第一回目に、授業の進め方などについて説明します。場合によっては受講者を制限することもあり得るので、参加希望者は必ず出席してください。</p>		

科目名	フランス文化・社会講読 6 (94年度以降) フランス語講読 10 (93年度以前)	担当者名	松山恒見
-----	---	------	------

講義の目標	<p>私自身も含め、フランス語文献を読むというと、とかく文学作品にかたよる傾向がある。もちろん時事フランス語その他、社会科学分野の講義もあることは知っているが、量的には少ないように見受けられる。</p> <p>この講読では、1945年第二次世界大戦が終わってから、ベルリンの壁が取り除かれるまでの、ホットな歴史をフランス語で読み、比較的新しいフランス語表現にふれて頂くとともに、現代を生きる常識と、大きく言えばこれからの世界への展望を得る一助として頂きたい。</p>	
講義概要	<p>下記の教材は、実はヴォリュームはそれほど多くないので、これのみを読むのであれば、後期の後半には、テキストを終えてしまっている可能性もある。そこで進度を睨みながら、補助教材を適時にリコピーで配布してそれを読むことにしたい。</p> <p>今日に直結する時代の歴史を扱うので、語学的には各種のネオロジスムや、とりわけ略語(シーグル)をふんだんに解説せねばならず、下記の評価方法欄のテストにも、その比重が高いことを覚悟して頂きたい。</p>	
使用教材	テキスト	Histoire de l'Europe 1945-1990 (第三書房)
	参考文献	多岐多数なので、教室で指示する。
評価方法	前・後期とも通常の語学試験の形式でテストを行い、その成績で評価する。	
受講者に対する要望など	二十一世紀も間近、これからの世界に生きるために、新聞の政治・外交・経済のページにも活発な関心を寄せて頂きたい。	

科目名	フランス文化・社会講読 7 (94年度以降) フランス語講読 15 (93年度以前)	担当者名	Ph. M. R. Vanney
-----	---	------	------------------

講義の目標	Pouvoir lire des textes à contenu politique, sociologique ou économique.		
講義概要	<p>Au début de l'année, après consultation avec les étudiants, choix d'au moins deux thèmes de réflexion (un par semestre), si possible - mais ce n'est pas obligatoire - en rapport avec les relations internationales. Par exemple: l'Europe, la francophonie, les ONG, la question des immigrés et des réfugiés, etc.</p> <p>Méthode: - Cours en français. Pas de traduction.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Approche globale: comprendre le sens général, le développement logique des idées. Répondre à des questions données au préalable.</li> <li>- Approche détaillée sur le plan lexical et grammatical.</li> <li>- Parfois, je donnerai des informations sur ce qu'il faut savoir à propos du thème abordé.</li> </ul> <p>Les étudiants doivent tenir un carnet de vocabulaire des mots qu'ils ne connaissent pas.</p>		
使用教材	テキスト	Photocopies: articles de journaux, de revues, extraits d'études plus longues.	
	参考文献	<p>Dictionnaire français, par exemple le <i>Micro Robert</i>.</p> <p>Journaux français comme <i>Le Monde</i> ou journaux pour lycéens.</p> <p>Journaux japonais.</p>	
評価方法	Examen à la fin de chaque semestre: explication de mots, de structures grammaticales et une petite composition.		
受講者に対する要望など	Tous les étudiants doivent préparer à l'avance le cours.		

科目名	フランス語学概論 1, 2, 3, 4 (93年度以前)	担当者名	各担当教員
-----	------------------------------	------	-------

講義の目標	初等文法の知識を前提にして、文法のわかりにくいところをピックアップし、一般的な本を読み、日常の会話ができる程度に語学能力を高めることを目的としています。具体的には、冠詞や動詞の時制、接続法の用法などを少し詳しく見てみたいと思います。		
講義概要	文法上のむずかしいところを取りあげて、説明し、練習します。語学は理解するだけでは充分ではなく、使えるようにならなくてはならないので、練習問題もやってもらいます。		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献	授業の際、指示します。	
評価方法	前、後期のテストの結果で判断します。出席点も考慮します。		
受講者に対する要望など	できるだけ、キチンと出席すること。		